

目次

2020年秋～2022年初夏 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	24
新刊の紹介動画YouTubeで配信中	31
テキストのご案内	32
電子教科書について	38
雑誌「日本文学」発売中	39
製作協力した電子学術雑誌	39
ウェブマガジン 未草のご案内	39
完結したシリーズのご案内	40

未 発

2022 年 春夏

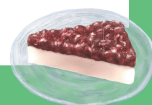
ジ ュ ニ ア 版

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

房主より



ひつじ書房は、ウェブ上に雑誌のように原稿を連載する「未草」という場所を設けています。いろいろなテーマでいろいろな執筆者の方に書いてもらっています。かつてであれば、言語の分野では『月刊言語』という雑誌がありましたし、国文学のジャンルでも2つの月刊誌がありました。学術的な成果と学術業界よりはもう少し広い読者を繋ぐ媒体がありました。残念ながら、なくなってしまっています。学術業界が、狭い意味でのアカデミックな世界の中で回るのでよいのなら、他との接点は必要がないかもしれませんが、人文的なテーマを扱う世界では、アカデミックな業界にとどまらない交流、発信、議論が重要です。そのためには雑誌的な発信の仕方があった方がいいと思います、「未草」を運営しています。その中で2つ紹介します。田尻英三先生には「外国人労働者の受け入れに日本語教育は何ができるか」を連載してもらっています。30回にもなっています。日本語教育という人々が学び、教え、生活する世界での重要な発言になっています。実際に日本語教育という仕組みを健全に機能させるための田尻先生の活動は貴重なものと分かります。清田朗裕先生の「現代の国語」と「言語文化」の問題点」の連載も貴重です。ここで浮かび上がってくるのは、「論理」を教えるということについて、そもそも、議論と積み上げができていないという現実です。国語教育政策の重要な課題が浮かび上がります。この2つにとどまらず重要な問題提起を含んだ文章が掲載されています。どうぞご期待下さい。



Twitter アカウントと YouTube チャンネルはこちらから。
ぜひフォロー & チャンネル登録お願いします！



Twitter
@hituzi_gusa
https://twitter.com/hituzi_gusa



YouTube
straysheep 2020
https://www.youtube.com/channel/UCT8t_I8nBbAMB1boi71s-4w



ひつじ書房

〒112-0011
東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
<https://www.hituzi.co.jp>
e-mail toiawase@hituzi.co.jp
tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917

2020 年秋～2022 年初夏 新刊のご案内

💡 印のついているものは、2021 年秋以降刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第 160 巻 **認知言語学の最前線** 山梨正明教授古希記念論文集

児玉一宏・小山哲春編

A5 判・416 頁・978-4-89476-993-9 定価 9,800 円＋税 発行 2021.5

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端で何が行われているかを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。執筆者：ロナルド・W・ラネカー、吉村公宏、高橋英光、野村益寛、中村渉、堀江薫・江俊賢、榎山洋介、菅井三実、谷口一美、早瀬尚子、大森文子、八木橋宏勇、松本曜、大月実、森雄一、篠原和子、堀田優子、渋谷良方



第 162 巻 **日本語文法史の視界** 継承と発展をめざして

高山善行著 A5 判・304 頁・978-4-8234-1008-6 定価 6,400 円＋税 発行 2021.3

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。



第 172 巻 **連濁の規則性をもとめて**

平野尊識著 A5 判・216 頁・978-4-8234-1019-2 定価 4,800 円＋税 発行 2021.5

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。



第 173 巻 **語法と理論との接続をめざして**

英語の通時的・共時的広がりから考える 17 の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

A5 判・384 頁・978-4-8234-1020-8 定価 6,000 円＋税 発行 2021.9 💡

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を 17 編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる 1 冊である。執筆者：家入葉子、石崎保明、植田正暢、内田充美、大谷直輝、樗木勇作、金澤俊吾、岸浩介、木山直毅、久米祐介、柴田かよ子、中村文紀、縄田裕幸、平沢慎也、廣田友晴、藤川勝也、松山哲也、柳朋宏



第 175 巻 **テキスト語彙論** テキストの中でみることばのふるまいの実際

高崎もどり著 A5 判・248 頁・978-4-8234-1054-3 定価 4,800 円＋税 発行 2021.3

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論や CDA (批判的ディスコース分析) にも目配りしている。



第177巻 日本語複文構文の機能論的研究

田中寛著 A5判・434頁・978-4-8234-1057-4 定価8,800円＋税 発行2021.2

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導的機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。



第178巻 日本語における短縮外来語の形成とその仕組み

文昶允著 A5判・164頁・978-4-8234-1061-1 定価5,000円＋税 発行2021.2

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成(例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象)の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因(音節構造や同音連続)に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第179巻 壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究

位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著 A5判・296頁・978-4-8234-1062-8 定価5,800円＋税 発行2021.2

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第180巻 環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究

山岡華菜子著 A5判・258頁・978-4-8234-1063-5 定価6,800円＋税 発行2021.2

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえ明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。〈日本学術振興会助成刊行物〉〈第53回早稲田大学国文学会(窪田空穂)賞〉



第181巻 述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造

三好伸芳著 A5判・284頁・978-4-8234-1064-2 定価7,000円＋税 発行2021.3

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



第182巻 感動詞研究の展開

友定賢治編 A5判・352頁・978-4-8234-1065-9 定価6,800円＋税 発行2022.3💡

『感動詞の言語学』(ひつじ書房2015)に次ぐ2冊目の感動詞論文集。感動詞化のメカニズムの対照研究、「おっと」「えーと」など「と」系感動詞の意味・用法、役割語における感動詞、日本語学習者の応答表現、など感動詞研究の広がりや深化を示す論文で構成されている。感動詞の魅力と研究の可能性が感じられる一冊。執筆者：井上優、金田純平、金水敏、小林隆、定延利之、冨樫純一、友定賢治、中西太郎、林青樺、仁科陽江、野田尚史、森山卓郎、楊虹、羅希、劉伝霞、有元光彦



第183巻 コピュラとコピュラ文の日韓対照研究

金智賢著 A5判・240頁・978-4-8234-1066-6 定価7,300円＋税 発行2021.7

本書は、現代日本語と韓国語の多様なコピュラ文の対照分析を通じ、両言語のコピュラ構造並びにコピュラ形式「だ」「ita」の特徴を明らかにしようとするものである。基本型コピュラ文の意味論的分析をはじめ、一項名詞文、ウナギ文、動作性名詞述語文、拡張型コピュラ文、分裂文、さらに、コピュラ及び属格助詞に関わる名詞修飾構造等を対照的に取り上げることで、日韓のコピュラやコピュラ文の根本的かつ総体的な理解に迫る。



第184巻 現代日本語の「ハズダ」の研究

朴天弘著 A5判・296頁・978-4-8234-1083-3 定価6,700円＋税 発行2021.3

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報(知識)に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。



第185巻 英語の補部の関係節の統語論・意味論と先行詞の問題

渡辺良彦著 A5判・516頁・978-4-8234-1102-1 定価10,000円＋税 発行2022.2💡

述詞関係節や副詞句を空所とするある種の関係節が、関係節の形をしながら修飾部とは異なる「補部」という意味機能を果たすのはなぜであろうか？ 本書は、可能な補部の関係節を限定するため関係節化を個体対象のものと述語対象のそれとの2つに分け、後者が補部の関係節を特徴づけるとする考えを生成文法の枠組みで論じた最初の試みである。本書では、命題関数でなく「命題」として解釈される関係節の存在が新たに提案される。



第186巻 語彙論と文法論をつなぐ 言語研究の拡がりを見据えて

斎藤倫明・修徳健編

A5判・360頁・978-4-8234-1111-3 定価8,000円＋税 発行2022.3💡

語彙論と文法論が密接に関わることは従来から言われてきたことだが、本論文集は、接辞や語はもちろん、連語や句といった語と文をつなぐ単位や、文章を構成する諸単位における語彙と文法との関連性(第1部)、文法化や対照研究の面(第2部)といったこれまであまり重点的に論じられなかった点から語彙論と文法論とのつながりを探ったものである。執筆者：庵功雄、石井正彦、甲田直美、斎藤倫明、佐藤佑、修徳健、曾睿、東条佳奈、ナロック・ハイコ、林雅子、早津恵美子、宮地朝子、森山卓郎、呂妍



第187巻 アラビア語チュニス方言の文法研究 否定と非現実モダリティ

熊切拓著 A5判・364頁・978-4-8234-1112-0 定価9,000円＋税 発行2022.2💡

アラビア語チュニス方言についての本邦初の文法研究書。否定辞 ma と接尾辞 -j で動詞などを挟むのは、アラビア語方言に広く見られる否定文の作り方だが、本研究はチュニス方言の否定文の実証的な分析を通じて、ma と -j の役割をはじめて解明。さらにチュニス方言独自の文法現象についても豊富に扱う。否定と非現実モダリティの関係、現実性の観点からの否定の種類、談話モダリティとしての否定など、他言語の研究にも応用可能な理論的考察も豊富。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



第190巻 書き言葉と話し言葉の格助詞 コーパスと辞書記述の観点から

丸山直子著 A5判・384頁・978-4-8234-1142-7 定価6,800円＋税 発行2022.5💡

現代日本語の格助詞について、複合格助詞も含めて、個々の助詞の性質や、助詞同士の関連について論じる。国語辞書における格助詞・格情報の記述法を検討し、コーパスをもとに、書き言葉・話し言葉の格助詞がどのように用いられているかの実態把握を行った。格の複数性(多重性・多側面性・連続性)と段階性(述語との結びつきの強さ)についても論じる。無助詞の現象やうなぎ文・こんにやく文についても触れている。

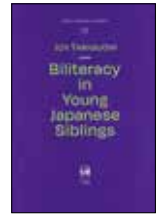


NOW
PRINTING

No.32 **Biliteracy in Young Japanese Siblings**

谷口ジョイ著 菊判・208頁・978-4-8234-1068-0 定価 9,800 円＋税 発行 2021. 2

本書は、海外生活により複言語環境にあった日本語を母語とする子どもの第二言語能力が、帰国後どのように変化するかを、長期にわたり質的に記述したものである。帰国児童が海外で身につけた英語の能力を、リテラシーという観点から捉え、兄弟姉妹とその家族を継続的に調査、観察することで、保護者の意識、子どもたちの日常的なリテラシー活動、人的ネットワークなど子どもたちを取り巻く社会的要因について明らかにする。〈日本学術振興会助成刊行物〉

No.33 **The Pragmatics of Clausal Conjunction**

長辻幸著 菊判・178頁・978-4-8234-1069-7 定価 9,800 円＋税 発行 2021. 2

本書では、日英対照の視点から、節連言構造の解釈メカニズムの解明とそのモデル化により、当該現象の全体像における核心部を明らかにする。節レベルの要素を等位的な接続表現でつなぐ節連言構造として、英語の and 連言文とそれに対応する日本語の複数の構造を認知語用論の枠組みに基づいて分析する。そのうえで、節連言構造の解釈に貢献する根本的な特性を抽出し、当該現象を統一かつ包括的に説明できる新たなアプローチを示す。〈日本学術振興会助成刊行物〉

No.34 **A Cognitive Linguistic Approach to Japanese Agrammatism**

井原浩子著 菊判・154頁・978-4-8234-1070-3 定価 9,200 円＋税 発行 2021. 3

本書は日本語の失文法に見られる助詞「が」、「を」、「に」、「から」の誤用について、主に授受動詞や受動文を用いた産出実験結果に基づき、認知言語学の視点から説明を試みる。また、それらと類似した幾つかの現象（子供の言語獲得過程で見られる助詞の誤用、口語体における助詞の省略、健常者の言い誤りに見られる助詞の誤用）を取り上げ、失文法の場合と比較することから見いだせる共通性と相違が何に起因するかを考察する。

No.35 **English Prepositions in Usage Contexts**

A Proposal for a Construction-Based Semantics

堀内ふみ野著 菊判・224頁・978-4-8234-1110-6 定価 9,400 円＋税 発行 2022. 2

語の意味とは何か。構文的なパターンは言語使用の中からどのように形成されるのか。これらの問いに迫るため、本書では、英語前置詞の振る舞いを大規模コーパスや親子会話のデータを用いて分析し、前置詞を含む構文的なパターンが使用文脈の中で創発・定着するプロセスを、認知、談話、相互行為の観点から解明する。分析の帰結として、意味を担う基本単位は単一の語より大きな構文的単位であるという「構文の意味論」を提唱する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



言語学翻訳叢書

21 **言えそうなのに言わないのはなぜか** 構文の制約と創造性

アデル・E・ゴールドバーグ著 木原恵美子・巽智子・濱野寛子訳

A5判・288頁・978-4-8234-1079-6 定価 3,800 円＋税 発行 2021. 9

絶えず変化するコンテキストの中で私たちは構文を創造的に使用する。しかしその一方で「言えそうなのに言わない」表現が存在する。たとえば explain me this は言えそうなのに英語母語話者は言わない。創造的でありながら制約が多い言語を子どもや大人はどのように学習するのか。本書はさまざまな構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら、この問いを探ってゆく。構文文法を初めて学ぶ読者にも薦められる一冊。原著：Adele E. Goldberg (著) *Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions*. 〈読売新聞書評掲載〉



40 日本語教育の新しい地図 専門知識を書き換える

青木直子、バーデルスキー・マッシュー編

A5 判・340 頁・978-4-8234-1022-2 定価 5,000 円＋税 発行 2021. 3

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す。執筆者：青木直子、バーデルスキー・マッシュー、リー・ウェイ（翻訳：井上エイミー）、百濟正和、義永美央子、西口光一、マーリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治、ケリー・カーティス（翻訳：富田キアナ）、宮原万寿子、八木真奈美、入江恵、中山亜紀子、柴原千佳、クラムシュ・クレア、川嶋恵子、中井好男、脇坂真彩子、欧麗賢、濱川祐紀代、瀬尾悠希子、末吉朋美



42 外国語としての日本語の実証的言語習得研究

玉岡賀津雄編 A5 判・208 頁・978-4-8234-1058-1 定価 5,000 円＋税 発行 2021. 3

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとすると、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」というアプローチの研究を、詳細な解説を含んで 8 つ掲載した。執筆者：王蕾、齊藤信浩、張靖韓、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子



43 日本語学習者による多義語コロケーションの習得

大神智春著 A5 判・280 頁・978-4-8234-1067-3 定価 6,800 円＋税 発行 2021. 2

本書は、学習者が多義動詞「とる」を中心語とするコロケーションの習得過程において、どのような中間言語を形成しているか解明することを目的とした。研究に当たっては、学習者の中間言語を典型化、一般化、差異化の観点から複合的に捉えることを試みた。また、研究結果を日本語教育のコロケーション教材開発に活かすことを目指し、教材作成過程における留意点や練習問題の在り方等を提言した。〈日本学術振興会助成刊行物〉



44 移住労働者の日本語習得は進むのか

茨城県大洗町のインドネシア人コミュニティにおける調査から

吹原豊著 A5 判・212 頁・978-4-8234-1096-3 定価 4,800 円＋税 発行 2021. 6

日本語学習リソースへのアクセスが制限されている移住労働者の日本語習得過程はどのようなものか。本書は 10 年余におよぶフィールドワークと 100 名を超える OPI によるデータをもとに、第二言語環境における移住労働者の日本語習得の過程を、日本の地域社会に存在する複数のコミュニティへ参加していく中での状況的学習としてとらえ、分析を行った研究の成果である。第二言語習得研究者はもとより広く在日外国人問題に関心のある読者に是非一読いただきたい。



コーパスによる日本語史研究【全 3 巻】

コーパスによる日本語史研究 近代編

田中牧郎・橋本行洋・小木曾智信編

A5 判・388 頁・978-4-8234-1097-0 定価 4,000 円＋税 発行 2021. 11

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。近年整備が進む歴史コーパスは、この方法を質的に深化させ量的に拡大することで、新たな地平を開きつつある。近代に焦点をあて、〈展望〉2 編、〈論文〉11 編、『日本語歴史コーパス』の〈解説〉4 編を掲載し、読者を新地平に誘う。執筆者：田中牧郎、橋本行洋、矢島正浩、宮内佐夜香、小島聡子、近藤明日子、高橋雄太、間淵洋子、横山詔一、竹村明日香、岡島昭浩、新野直哉、小木曾智信、服部紀子



シリーズ刊行予定

コーパスによる日本語史研究 中古・中世編

青木博史・岡崎友子・小木曾智信編 p. 27

コーパスによる日本語史研究 近世編

岡部嘉幸・橋本行洋・小木曾智信編

3 ノモスとしての言語

大宮勘一郎・田中慎編

A5判・344頁・978-4-8234-1106-9 定価 4,400円＋税 発行 2022.5 

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第3巻。第1部「近代ドイツにおける「国語」」では、言語の規範(ノモス)の形成と変容の社会的、物質的条件についてドイツ語を例に歴史的観点から考察する。第2部「現代におけるノモスの揺らぎ」では、現代の言語規範のありかたについて地理的、社会的、文体的な観点から検討する。執筆者：井出万秀、遠藤浩介、大宮勘一郎、小川敦、川島隆、清野智昭、杉田優子、高田博行、高橋秀彰、武田利勝、田中慎、宮田眞治

シリーズ既刊

1 断絶のコミュニケーション 高田博行・山下仁編

A5判・272頁・978-4-89476-961-8 定価 3,800円＋税 発行 2019.3

2 ドイツ語と向き合う 井出万秀・川島隆編

A5判・276頁・978-4-89476-998-4 定価 4,000円＋税 発行 2020.8



2 場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子編

A5判・308頁・978-4-89476-792-8 定価 3,600円＋税 発行 2020.11

『コミュニケーションのダイナミズム』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第2巻。既存の語用論理論に新しい語用論の世界を切り拓く一冊。これまでの語用論理論から漏れてしまった非西欧社会の言語実践現象に息吹を与え、日本語のみならず、ハワイの文化・コミュニケーションの理解などに資する世界的視野からの新しい理論の提案書。執筆者：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫、古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト



3 場と言語・コミュニケーション

岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編

A5判・288頁・978-4-89476-793-5 定価 3,600円＋税 発行 2022.1 

『場とことばの諸相』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第3巻。近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論に基づく「主客非分離」「場における相互作用」のパラダイム転換を打ち出した渾身の一冊。人称詞、指示詞、絵本の日英対照、複合動詞、身体論など、豊富な事例研究を展開し、新たな言語研究の地平を切り開く。執筆者：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由里、小柳昇、河野秀樹



シリーズ既刊

1 コミュニケーションのダイナミズム 自然発話データから

藤井洋子・高梨博子編 A5判・272頁・978-4-89476-791-1 定価 2,600円＋税 発行 2016.3

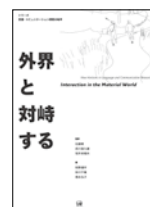


外界と対峙する

牧野遼作・砂川千穂・徳永弘子編

A5判・256頁・978-4-8234-1127-4 定価 3,200円＋税 発行 2022.6

LC (Language and Communication) 研究会による研究成果をまとめたシリーズ。“外界”とは単に屋外のことを指すわけではない。本巻では“外界”をコミュニケーションに参加していない人々やモノと捉え、文化人類学、ロボット工学、会話分析、語用論などの幅広い分野からのアプローチによる研究を収録。執筆者：川口一画、黒嶋智美、清水大地、須永将史、砂川千穂、徳永弘子、名塩征史、蓮見絵里、平本毅、牧野遼作



シリーズ予定

自己と対峙する 吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編 p. 25

他者と対峙する 有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編 p. 25

ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ (赤野一郎・内田聖二監修)

3 接辞から見た英語 語彙力向上をめざして

西川盛雄著 四六判・172頁・978-4-89476-932-8 定価 1,600円＋税 発行 2021.12

英語を学ぶに際し、語の仕組みについて知ることはとても重要。語の仕組みや意味や語源を知ることがこれを使う技能のレベルアップにつながる。語形成の重要な要素は接辞。接辞が分かれば英語が身近で面白く、魅力的に見えてくる。本書は英語の接辞付与による語形成について分かりやすく具体的に説明した。本書を読めばさまざまな発見があるはず。本書によって英語の語形成の面白さが分かり、語彙が増え、英語力が高まることが期待できる。



4 カタカナ語からはじめる英語の発音

中西のりこ著 四六判・168頁・978-4-89476-991-5 定価 1,600円＋税 発行 2022.2

日本語母語話者が英語発音を学ぶ際、カタカナ外来語の発音との混同が起こりやすい。しかし日本語発音と英語発音のしくみの違いを体系的に理解できれば、発音を学ぶことは難しくない。本書では、日常語として馴染みのあるカタカナ語を例に、敬遠されがちな発音記号を分かりやすく説明する。さらに音声変化やプロソディのしくみについても解説し、発音練習におすすめの学習法を紹介する。身近にあるカタカナ語の知識を活かして、発音の苦手意識を克服してほしい。

★音源はネットで提供。



ひつじ研究叢書 (文学編)

13 文学と戦争 言説分析から考える昭和一〇年代の文学場

松本和也著 A5判・592頁・978-4-8234-1103-8 定価 7,000円＋税 発行 2021.11

本書は、アジア・太平洋戦争期と重なる昭和10年代文学(史)に関する研究プロジェクトとして、多彩な文学活動を歴史的なアプローチによって多角的に検証した成果の集大成である。昭和10年代を通じて多くの文学者が関わった論争的なテーマの数々、話題となった文学作品の特徴や同時代受容、戦時下における文学者の生き方などをとりあげ、問題構成に応じてアレンジしたメディア調査、言説分析、テキスト読解をクロスさせた考察を集積した。装画 会田誠



14 横光利一と台湾 東アジアにおける新感覚派 (モダニズム) の誕生

謝恵貞著 A5判・424頁・978-4-8234-1109-0 定価 6,200円＋税 発行 2021.12

日本統治期台湾の文学において、横光利一の「純粹小説論」や作品が与えた影響は大きく、また、その影響は中国や韓国など東アジアに広がる。本書は、日本統治期において台湾人作家がいかに横光を受容したかを解明し、台湾文学史の中にこれまで看過されてきた「台湾新感覚派」の誕生を文学史に正しく位置づける。更に、韓国の李箱や中国に渡った劉呐鵬の横光受容や、新発見された横光の随筆「台湾の記憶」を通して台湾の表象を論じる。



15 村上春樹 〈物語〉の行方 サバルタン・イグザイル・トラウマ

山根由美恵著 A5判・426頁・978-4-8234-1123-6 定価 6,800 円＋税 発行 2022. 5 

本書は、村上春樹が日本を離れ「イグザイル」(故郷離脱)を開始した時期から最新作までの村上文学の全体像および、変遷を捉えることを目的としている。現在村上は「世界文学」作家と評されることも多いが、自らを故郷離脱者と捉え模索した時期がある。この「イグザイル」意識からテキストを逆照射し、村上文学の新たな側面を提示した。また、本書では村上文学における「サバルタン」(下層・従属的・副次的存在)に着目し、村上文学の持つ批評性(とその限界)を捉えていることも特徴である。



未発選書

27 女性作家は捉え返す 女性たちの物語

西田谷洋著 四六判・416頁・978-4-8234-1047-5 定価 3,600 円＋税 発行 2020. 9

児童文学の女性作家たちはどのような物語を紡ぎ出したのだろうか。児童文学は一見子供向けとされるが、実際には別世界への飛翔だけでなく、時にメランコリックで無気力な人物を描き、死や記憶にまつわる物語が編まれていた。本書は、教科書教材に採用されることも多い安房直子・あまきみこ・小川洋子の作品と共に、吉本ばなな・山内マリコの小説、岡田麿里脚本のアニメ、香魚子の少女漫画を取り上げ、女性児童文学の様相を探る。



28 マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐって

出原健一著 四六判・260頁・2刷・978-4-8234-1048-2 定価 3,500 円＋税 発行 2021. 3

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるよう新たな視点理論の提案を試みる。



29 トランス・モダン・リテラチャー

「移動」と「自己」をめぐる芥川賞作家の現代小説分析

疋田雅昭著 四六判・582頁・978-4-8234-1094-9 定価 5,800 円＋税 発行 2021. 5

「自己」が近代文学が拘り続けたテーマであることは言を俟たないが、現代文学は統一され安定した「自己」そのものへの不信から始まっている。ともに時空を「移動」し続ける存在としての読者とテキストが出会う結節点。そこから変容しながらも繰り返し立ち上がってくる主体こそが現代文学が語る「自己」にほかならない。本書は「自己」と「移動」に着目し芥川賞受賞作家のテキストから平成という時代の諸相を読み込む試みである。



30 「大東亜」の読書編成 思想戦と日本語書物の流通

和田敦彦著 四六判・360頁・978-4-8234-1129-8 定価 2,900 円＋税 発行 2022. 2 

本書は、戦時期に日本の言語や文化の価値を教え、紹介し、広げていった人々の活動やその仕組みに焦点をあてる。知や情報を広げ、読者に働きかけていく仕組みを、国内の文化統制と、外地や占領地に向けた文化工作とに通底する技術として明らかにする。そのために、書物の読者への広がりをとらえる新たな研究方法を用いた。思想戦の政策から実践への展開が、占領地や移民地に遺る日本語蔵書の詳細なデータから初めて明らかにされる。



語りと主観性 物語における話法と構造を考える

阿部宏編 A5判・400頁・978-4-8234-1105-2 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 2 

本書は、日本語や英語・フランス語・ドイツ語における語りの問題、特に自由間接話法をはじめとする主観性関連の諸現象への複合的なアプローチの試みである。15篇の論文それぞれの関心は相互に重なり合うが、第1章では言語学的問題、第2章では文学論・物語論、第3章では言語以外の表現形態との接点について主として考察している。執筆者：赤羽研三、阿部宏、石田雄樹、出原健一、川島浩一郎、小林亜希、嶋崎啓、鈴木康志、田原いずみ、平塚徹、深井陽介、牧彩花、松澤和宏、三瓶裕文、吉川一義(日本学術振興会助成刊行物)



〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語

アспект表現のロシア語・日本語対照研究

金子百合子著 A5判・400頁・978-4-8234-1117-5 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 2 

アспектは動作のどの部分を言語上で切り取るかを問うカテゴリーだが、それも言語的世界像の一部をなす。動作の展開において〈限界〉志向のロシア語と〈安定〉志向の日本語では、同じ意味でも「重み」や「振る舞い」が異なる。アспект的志向の違いはさらにテンスやモダリティ、語形成や構文における表現上の差異となって現れる。アспект意味の理論と実践の実態を多様な言表事実を基に検証する本邦初の本格的な露日対照言語研究。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



早稲田大学日本語学会設立 60 周年記念論文集 第 1 冊

言葉のしくみ

早稲田大学日本語学会編

A5判・384頁・978-4-8234-1118-2 定価 7,000 円＋税 発行 2021. 12 

早稲田大学日本語学会設立 60 周年を記念して「早稲田日本語学」の広がりと深まりを示す論文集。第 1 冊「言葉のしくみ」には、音韻、文字表記、語彙の分野を中心に 21 論文を収載。「『日粵会話』とその音注表記」「音声の定量的研究法をかんがえる」「行草書体と楷書体」「日本語表記の「日常」「歴史コーパスに対する話者情報付与の試み」等。執筆者：池上尚、市村太郎、上野和昭、遠藤織枝、加藤大鶴、木村義之、小宮千鶴子、今野真二、坂本清恵、笹原宏之、佐藤栄作、澤崎文、すぎもとつとむ、鈴木豊、高松正毅、田中優子、中川秀太、馬之濤、増地ひとみ、山岡華菜子、吉田健二



早稲田大学日本語学会設立 60 周年記念論文集 第 2 冊

言葉のはたらき

早稲田大学日本語学会編

A5判・432頁・978-4-8234-1119-9 定価 8,000 円＋税 発行 2021. 12 

早稲田大学日本語学会設立 60 周年を記念した論文集の第 2 冊「言葉のはたらき」には、文法（歴史的研究・現代）、文章・文体・談話、待遇表現、言語教育・言語施策に関する 23 論文を収載。「文末思考動詞と推量の助動詞」「主題のない文の現れ方」「文章・談話における「段」の展開的構造」「明治期東京語における〈行く・来る〉の謙譲語の使用」等。執筆者：石黒圭、石出靖雄、岡田祥平、加藤薫、蒲谷宏、刈宿紀子、河内彩香、木村寛子、坂本恵、佐久間まゆみ、澤田淳、高野敦志、寺田智美、永岡悦子、仁科明、松木正恵、三原裕子、宮崎里司、森野崇、森山卓郎、山口佳也、山田里奈、渡辺由貴



ソシュールのアナグラム予想 その「正しさ」が立証されるまで

山中桂一著 A5判・152頁・978-4-8234-1092-5 定価 2,600 円＋税 発行 2022. 4 

古典語の詩には、表現に並行して神格や作者名、テーマなどの音像を形成するような未知の詩法が存在したのではないか——この直感こそソシュールを夢中にさせたが、結局その確証を得るに至らず、また後世の研究者たちも目ぼしい成果を挙げられなかった。しかし最近ようやくアナグラムの存在とその仕組みに関する有望な学説が登場した。本書ではそこに至る紆余曲折を略述し、最終解と思しいこの新説を紹介する。



Linguistic Atlas of Asia

遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編

B5判・376頁・978-4-8234-1074-1 定価 28,000 円＋税 発行 2021. 9  在庫僅少

アジア全域の全語族につき 2000 地点ほどの密度で「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法（類別詞）・声調とアクセント・雨が降る」の 8 項目に対して言語地図を描画し、それぞれの語形の形成過程に関する解釈を集成した。24 名からなる各語族の専門家によるコラボレーションの成果である。項目ごとにアジア全域における概観が与えられ、マクロ・ミクロな地理分布をパノラマのように一望することができる。★A1 判付録地図付き。〈日本学術振興会助成刊行物〉



自由研究 ようこそ！ことばの実験室(コトラボ)へ

松浦年男著 A5判・152頁・978-4-8234-1108-3 定価 1,400 円＋税 発行 2021. 8

ことばの仕組みや特徴の調べ方を小学生に向けて解説。自由研究のガイドとしても、調べ学習の参考資料としても使える。内容は、3つのワーク——①考える(「隠れた「つ」を探せ!」・「は」と「が」はどう並んで?」)、②作る(「漢字だけ文を書いてみよう」)、③調べる(「世界のことばで「日本」は何と呼ぶのか?」・「手話のことを調べよう」)で、ことばの楽しみ方がいろいろな角度から分かるよう工夫されている。



アジア・太平洋における日本語の過去と現在

今村圭介、ダニエル・ロング編

A5判・448頁・978-4-8234-1098-7 定価 7,200 円＋税 発行 2021. 10

本書は、戦前日本の帝国主義による領土拡大の影響からアジア・太平洋に広がった日本語の過去と現在を記述するものである。長年各地で調査研究を進めてきた著者陣による3部構成の論考であり、「残存した日本語」「接触言語」「日本語からの借用」の3つの側面を記述している。近年研究が進んだ同分野の研究の全体像を明らかにする1冊である。執筆者：今村圭介、ダニエル・ロング、朝日祥之、甲斐ますみ、黄永熙、甲賀真広、合津美穂、真田信治、高木丈也、張守祥、白曉萌、李舜炯〈日本学術振興会助成刊行物〉



知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編

A5判・268頁・978-4-8234-1000-0 定価 3,600 円＋税 発行 2021. 7

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング(TM)に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編ではTMの理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野におけるTMの実践的な研究例を提示する。執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、秦正樹、畑島英史



国語問題と日本語文法研究史

仁田義雄著 四六判・244頁・978-4-8234-1114-4 定価 2,800 円＋税 発行 2021. 12

言語的不平等に対する理想と現実の乖離を指摘。裁判での使用言語などを通し、国家の国語に対するあり方に触れ、近代日本の国語創出における上田万年の果たした役割を解明。国語問題への小林英夫の革新的な考えを明示。テニヲハ・係り結び・語分類への考察の進展、及び明治以降の文法研究の進展を描きながら、日本語文法研究史を概説、明治期の群小文法書の取り出しが本書の特徴。さらに現代日本語文法の記述的研究の確立化を示す。



【研究プロジェクト】時間と言語 文法研究の新たな可能性を求めて

益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

A5判・352頁・978-4-89476-992-2 定価 6,200 円＋税 発行 2021. 2

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美



発話の権利

定延利之編 A5判・244頁・2刷・978-4-89476-983-0 定価 2,900 円＋税 発行 2020. 12

車が動かないのは、運転手がペダルを踏み間違えているからである。それを見つければ車内の誰でも「あ、ブレーキ踏んでる!」と言える。だが、「あ、ブレーキ踏んでた!」は基本的に運転手しか言えない。この運転手の「特権性」はどこから、どのように生じるのか? 語用論、会話分析、人類学、動物行動学の第一線の研究者たちの「答」がここにある。執筆者：木村大治、串田秀也、定延利之、園田浩司、高梨克也、中村美知夫、細馬宏通、村田和代〈読売新聞書評掲載〉



日本語の乱れか変化か これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

A5判・272頁・978-4-8234-1037-6 定価 3,800 円＋税 発行 2021. 2

ルールからの逸脱という一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの1冊。執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻

「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

A5判・332頁・978-4-89476-782-9 定価 4,200 円＋税 発行 2021. 3

シリーズ第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、テンス・アスペクト体系とテンス形式、日英語のナラティブとテンス形式、東北方言から見た「した」とムード、英語の「した」、テイルの1つの意味、知識と体験、体感から見た「した」と「している」、無標否定形式「していない」、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アスペクト・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠億、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福岡健伸、松田真希子、和田尚明



「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門

中俣尚己著 A5判・208頁・2刷・978-4-8234-1059-8 定価 1,800 円＋税 発行 2021. 4

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3部構成。第1部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第2部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第3部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



ビジネス文書の基礎技術 実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

石黒圭・熊野健志編

四六判・208頁・978-4-8234-1085-7 定価 1,400 円＋税 発行 2021. 3

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特徴を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光 ■ Kindle版も発売中。



日本語文法史キーワード事典

青木博史・高山善行編

四六判・164頁・978-4-89476-966-3 定価 2,000 円＋税 発行 2020. 12

文法史研究は、現在、日本語学の中で最も活気のある分野の一つである。ただし、多様な研究成果が公表される一方で、細分化・専門化により研究の全体像が見えにくくなってきている面もある。本書は、日本語文法史の世界を俯瞰し、読み解く道標として77のキーワードを精選し、簡明に解説をおこなったものである。専門的な研究者のみならず日本語文法史について学びたい一般読者にも最適な一冊。



日本語文法史研究 5

青木博史・小柳智一・吉田永弘編

A5判・312頁・978-4-8234-1046-8 定価 4,000 円＋税 発行 2020. 11

本書は、日本語文法史研究の発展を目指して編まれた論文集の第5号である。隔年刊行であるため、取り組みを始めてから10年になる。考察の対象とするテーマや時代、方法論の如何に関わらず、文法史を記述するとはどういうことか、という課題に自覚的であり続けている。研究論文10本の他、テーマ解説、文法史の名著、研究文献目録を収めている。執筆者：青木博史、勝又隆、小柳智一、近藤要司、高山善行、竹内史郎、辻本桜介、仁科明、山口響史、吉井健、吉田永弘、渡辺由貴



全国調査による言語行動の方言学

小林隆編 A5判・356頁・978-4-8234-1071-0 定価 5,000 円＋税 発行 2021. 3

荷物運びを手伝ってもらいたいとしたら、どのような頼み方をするだろうか。おつりが間違っていることを注意するときはどうだろう。本書は、そうした言語行動の地域差を全国1000地点規模の調査によって明らかにする。目的別に分類されたさまざまな言語行動のデータを分析することで、この分野の方言学の基盤づくりをしようというのが本書のねらいである。執筆者：井上文子、尾崎喜光、櫛引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名渉子、篠崎晃一、竹田晃子、津田智史、中西太郎、松田美香



方言の研究 7

日本方言研究会 A5判・128頁・978-4-8234-1095-6 定価 5,000 円＋税 発行 2021. 7

投稿論文1本、資料・情報1本、また、「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」(各2本)を掲載する。最新の研究成果に加えて、コロナ禍における研究実践・研究支援活動の報告や方言研究の指針を具体的かつわかりやすく示すとともに、長く方言研究を下支えしてきた市民による方言学を紹介する。執筆者：井上文子、加藤和夫、岸江信介、久保博雅、小西いずみ、田中ゆかり、二階堂整、西尾純二、灰谷謙二、半沢康



新版 社会言語学図集 日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編

A5判・296頁・978-4-89476-942-7 定価 2,500 円＋税 発行 2021. 11

社会言語学の各領域におけるトピックを集成し、それぞれの裏付けとなったデータを図表の形にして掲げ、日本語と英語・中国語・韓国語で簡潔な解説を加えた。近年、大学等での授業科目として「社会言語学」が取り上げられることが多くなった。本図集は、そのための教材として新たに編修したものである。日本語をもとにして、英語、中国語(繁体字)、韓国語による要約も掲げているので、対照しつつ外国語学習としても活用できよう。秋山書店で刊行されていた図集の改訂新版。



改訂版 社会言語学 基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・978-4-8234-1143-4 定価 2,200 円＋税 発行 2022. 3

社会言語学の成り立ちから、最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析の章を設け、言語人類学、批判的談話分析に関しても充実させた。はじめて社会言語学を学ぶ学生だけでなく、これから談話分析を目指す学生にも役立つ内容である。言語と社会、言語と文化、異文化コミュニケーションに興味のある学生の読本としても使える一冊。



フィールドワークではじめる言語学 なじみのない言語から考える

古閑恭子著 A5判・192頁・978-4-8234-1139-7 定価 2,200 円＋税 発行 2022. 3

言語学入門書にこそ、なじみのない言語を——！ 言語学テキストのほとんどは、最もなじみのある言語を中心に作られている。しかし、既存の枠組みを取っ払って考えるという言語学の基本を実践するのに、なじみのない言語こそ格好の素材である。日本語や英語とは違ったことばの世界があることを知り、なじみのある言語を見つめ直すことにもつながる。筆者の研究対象であるガーナの言語を主に取り上げ言語のしくみを紐解いていく、一味違った言語学入門書。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著 A5判・288頁・978-4-8234-1093-2 定価 1,700円＋税 発行 2021.3

初版刊行より約10年を経て大幅に改稿。現在の状況を反映させた。第2版刊行。コーパス言語学(corpuslinguistics)は、英語においては1990年代以降、日本語においては2000年代以降、それぞれ急速な進展を見せ、現在、言語や言語教育に関わる幅広い研究分野に大きな影響を及ぼしている。本書は、英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かすことを目指す。



ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

A5判・144頁・978-4-8234-1044-4 定価 1,700円＋税 発行 2021.2

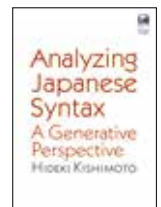
語彙には歴然とした体系的性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



Analyzing Japanese Syntax A Generative Perspective

岸本秀樹著 菊判・240頁・978-4-89476-988-5 定価 2,600円＋税 発行 2020.10

意外なほどに身近な英語と日本語の言語現象を通して、普段気がつかないことばの仕組みへ招待し、生成文法の考え方を学ぶ。言語系の学生ばかりではなく、また、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、生成文法の考え方や面白さに興味を持ってもらい、文法について考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。『ベーシック生成文法』(p. 35)を基にした英語版。■Kindle版も発売中。



標準韓国語文法論

南基心・高永根・劉賢敬・崔炯龍著 五十嵐孔一監訳 鷺澤仁志・松浦利恵・千代裕介・崔允智・姜詠里・根津祐希訳

A5判・440頁・978-4-8234-1077-2 定価 8,200円＋税 発行 2021.3

本書は南基心、高永根他著『표준 국어문법론(標準韓国語文法論)』(全面改訂版、2019)の全訳である。韓国語の形態論と統辞論を詳細に述べたもので、全面改訂版では最新の言語学、韓国語学研究成果を加筆した内容となっている。韓国の学校文法に準拠した本書は1985年の初版以来、韓国語文法の研究と教育の両分野で文字通り、標準的な文法書として読み継がれている。韓国語学、朝鮮語学のみならず、日本語学に携わる研究者にも必須の一冊である。



韓国語を教えるための韓国語の発音システム

金鐘徳著 中村麻結訳

A5判・216頁・978-4-8234-1073-4 定価 6,800円＋税 発行 2021.1

本書は、第二言語としての韓国語教育のための発音規則を網羅してその階層を詳らかにした上で、韓国国立国語院標準語規定標準発音法及び標準韓国語大辞典を精査検証し、最適な用例及び例外を提示しつつ、教条的な規範主義ではなく、現実発音を追求する良著である。韓国語を教育する教授者・その教授法を学ぼうとする学生・大学院生・講師志望者必携の書であり、韓国語学習者にとっては発音規則を学ぶための最良の参考書となるだろう。



認知言語学と談話機能言語学の有機的接点

用法基盤モデルに基づく新展開

中山俊秀・大谷直輝編

A5判・408頁・978-4-89476-995-3 定価 4,500 円＋税 発行 2020. 12

本書は、言語を実際の言語経験に基づいて形成される動的な知識体系として捉える用法基盤モデルを接点として認知言語学と談話機能言語学の有機的融合を図り、言語知識、言語獲得、言語運用に関する研究の新展開の可能性を示す。第1部と第2部で用法基盤モデルで想定される言語観を概観し、第3部では学際的な視点から行われた9つの研究を実例としてあげる。執筆者：岩崎勝一、大谷直輝、大野剛、木本幸憲、佐治伸郎、サドラー美澄、柴崎礼士郎、鈴木亮子、第十早織、巽智子、田村敏広、長屋尚典、中山俊秀、堀内ふみ野、松本善子、吉川正人



実験認知言語学の深化

篠原和子・宇野良子編

A5判・280頁・978-4-8234-1005-5 定価 5,400 円＋税 発行 2021. 5

2008年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来10年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobin など実験認知言語学発展の歴史に必読論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人



言語学と科学革命 認知言語学への展開

山梨正明著 四六判・216頁・978-4-8234-1076-5 定価 3,200 円＋税 発行 2021. 5

本書は、科学哲学の観点から、言語学における新たな言語理論の展開のメカニズムの諸相を明らかにしていく。特に、生成意味論を母体として出現した認知言語学の科学的探求の方法を、科学哲学のパラダイム変換の観点から考察する。また、認知言語学の研究が、言葉の探求だけでなく、修辞学、哲学、認知心理学、脳科学、等の関連分野の研究にどのような重要な知見を提供するかを考察していく。言葉と知のメカニズムの研究への新たな指針となる一冊。



認知言語学論考 No.15

山梨正明編 A5判・324頁・978-4-8234-1029-1 定価 9,800 円＋税 発行 2021. 3

認知言語学の出現の背景と言語研究の新たな展望 山梨正明／身体投射 沖本正憲／時間の流れに関する認知言語学的考察 吉本一／《指示》の文法を考える 深田智／相互行為における指示の構造と指示表現の選択 平田未季・山本真理／商標言語学 五所万実／特定のインスタンスに成立するメトニミーの理解過程について 伊藤薫／命令・禁止表現から接続表現へ 朱冰・堀江薫／逆接「～ながら」の周辺事例の解釈 梶川克哉



「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著 A5判・304頁・3刷・978-4-8234-1056-7 定価 3,600 円＋税 発行 2021. 1

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為の観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマンの枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。■ Kindle 版も発売中。
(読売新聞／産経新聞書評掲載)



越境者との共存にむけて

村田和代編 A5判・288頁・978-4-8234-1122-9 定価 4,200 円＋税 発行 2022. 2💡

日本社会における喫緊の課題である多文化共生をめぐり、ナラティブ分析というミクロアプローチから、言語教育政策や公共政策への提言といったマクロアプローチまで、分野を超えて多層的に考察する。ポストコロナの日本社会において、何を変えるべきなのか、誰が変わるべきなのか、越境者との共存や多様性をあらためて問い直す。執筆者：岩田一成、大石尚子、岡本能里子、片岡邦好、木村護郎クリストフ、村田和代、山口征孝、吉田悦子、Julian Chapple、Magda Bolzoni、Astha TURADHAR

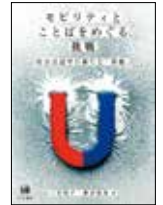


モビリティとことばをめぐる挑戦 社会言語学の新たな「移動」

三宅和子・新井保裕編

A5判・284頁・978-4-8234-1128-1 定価 3,200 円＋税 発行 2021. 12💡

「移動の時代」といわれる 21 世紀、グローバル化、デジタル化の中で移動する人とことばの関係は多様性・流動性を深めている。従来の人文社会科学のパラダイムでは捉えきれなくなった、ポストモダンを生きる人々の「モビリティ」とことばの現実を把握するにはどのような視点や方法論が求められるのか。この課題に取り組んできた 10 人の研究者が集結。執筆者：新井保裕、岩崎典子、生越直樹、フロリアン・クルマス (三宅和子訳)、佐藤美奈子、サウクエン・ファン、古川敏明、三宅和子、山下里香、吉田真悟



ナラティブ研究の可能性 語りが写し出す社会

秦かおり・村田和代編

A5判・240頁・978-4-8234-1006-2 定価 3,600 円＋税 発行 2020. 12

本書は、多様なアプローチからの研究方法を用いてナラティブ (語り) を考察する実証研究論文 9 本とイントロダクションから構成される。様々な場所で、様々な人を相手に語られたナラティブを紐解くことで、そこに反映されている現代の価値観や社会規範を批判的に読み解き、それに基づく問題の所在とその解決を導くことをめざしている。執筆者：相田慎、石原凌河、植田栄子、大場美和子、佐藤彰、秦かおり、村田和代、山口征孝、吉田悦子、饒平名尚子



メディアとことば 5 特集：政治とメディア

秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編

A5判・280頁・978-4-89476-996-0 定価 4,000 円＋税 発行 2020. 11

近年、世界的に政治は流動期に入っていると言える。その動きを、メディアなくして私たちが把握するのは不可能に近い。今回の特集では、そのような重大な役割を担うメディアが実際にどのように機能しているのかを、政治とメディアの共謀の関係や、政治とメディアの有り様などから紐解く。各章にキーワードのコラム付き。執筆者：五十嵐浩司、遠藤薫、岡本能里子、片岡邦好、金水敏、佐藤彰、辻大介、坪井睦子、秦かおり、劉翔



質的言語教育研究を考えよう リフレクシブに他者と自己を理解するために

八木真奈美・中山亜紀子・中井好男編

A5判・200頁・978-4-8234-1042-0 定価 2,200 円＋税 発行 2021. 10💡

言語教育の分野でも広がる「質的研究」。興味があるけど、どうやるの？ インタビューをすれば質的研究？ 結果は一般化しないの？ 様々な疑問に、言語教育の実践者である執筆者が、それぞれの研究とその裏側を明かし、新たな概念の提唱を試みた渾身の書。初心者も経験者も質的研究の真髄を知りたいなら、この 1 冊。執筆者：八木真奈美、中山亜紀子、中井好男、李曉博、脇坂真彩子、欧麗賢、大河内瞳、サマンティカ・ロクガマゲ、嶋本圭子、瀬尾悠希子



日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成

野田尚史・中尾有岐編

A5判・264頁・978-4-8234-1120-5 定価 3,200 円＋税 発行 2022.3

日本語学習者向けの聴解教材の作成方法を解説する。実際に聞く必要がある日本語を分析し、学習者が聴解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ聴解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるのは「飲食店スタッフの発話を聞く教材」「雑談を聞く教材」「講義を聞く教材」「会議の発話を聞く教材」である。国語教育にも有益。執筆者：久保輝幸、阪上彩子、島津浩美、首藤美香、鋤野亜弓、高山弘子、太原ゆか、中尾有岐、中山英治、野田尚史、萩原章子、日比伊奈穂、村田裕美子、吉川景子



データ科学 × 日本語教育

李在鎬編 A5判・328頁・978-4-8234-1099-4 定価 3,000 円＋税 発行 2021.11

コーパスと統計、計量分析のような、データ科学に基づく実証研究の方法論と研究例によって、新しい日本語教育学の方向性を提示する。方法論編ではデータ科学の全体像を示した上で、データ構築の方法や分析手法を紹介。研究事例編では音声学、文字学、語彙論、文法論、文章談話論、文体論、日本語教育史の観点から最先端の研究例を紹介。執筆者：阿辺川武、岩崎拓也、大崎健一、小野塚若菜、木下直子、鯨井綾希、滝島雅子、田中祐輔、玉岡賀津雄、仁科喜久子、早川杏子、ホドシチェック・ボル、本多由美子、三谷彩華、村田裕美子、八木豊、李在鎬



場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子著

A5判・484頁・2刷・978-4-8234-1090-1 定価 3,600 円＋税 発行 2021.4

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識、文法用語、主要な教科書との対応、母語話者の使用実態、誤用例、授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。国内外の日本語教師の必携書。■ Kindle 版も発売中。



アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング

協働実践研究のための持続的発展的拠点の構築

協働実践研究会 池田玲子編

A5判・248頁・978-4-8234-1088-8 定価 3,000 円＋税 発行 2021.2

「ピア・ラーニング(協働学習)」は今や世界的潮流となった。アジア各地では従来の教育の変革が大きな課題となっている。そこで、日本語教育協働実践研究者たちが、アジア地域でピア・ラーニングを理解し実践するための実践研究拠点の構築に取り組んだ。本書は、そのプロセスと成果を報告した本。日本語教育のみならず教育関係者に必読の書。執筆者：池田玲子、館岡洋子、近藤彩、金孝卿、トンプソン美恵子、朱桂榮、羅曉勤、金志宣、木村かおり、スニーラット・ニンジャローンソック、ナイダン・バヤルマ、アリアンティ・ヴィシアティ、荒井智子、張瑜珊、菅田陽平、駒澤千鶴、房賢嬉、小浦方理恵



統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著

A5判・128頁・978-4-8234-1028-4 定価 1,400 円＋税 発行 2021.3

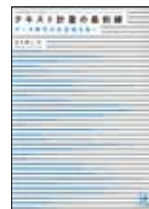
学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



テキスト計量の最前線 データ時代の社会知を拓く

左古輝人編 A5判・176頁・978-4-8234-1072-7 定価2,800円＋税 発行2021.2

近年、計読(テキストマイニング、テキストアナリティクス、計量テキスト分析、質的データ分析)は人文・社会科学の多岐にわたる領域で応用が進みつつある。本書は単なるハウツーではなく、具体的な課題に計読の諸技法を本格的に適用した研究成果を集めた。思想史・概念史、学説研究、ジャーナリズム言説の分析、研究者ネットワークの分析など、研究会での議論を通じた切磋琢磨を経て、現代日本の計読研究の規準を提示する。執筆者：河野静香、左古輝人、鈴木努、橋本直人、樋熊亜衣、前田一歩



「問う力」を育てる理論と実践 問い・質問・発問の活用の仕方を探る

小山義徳・道田泰司編

A5判・360頁・978-4-8234-1035-2 定価2,800円＋税 発行2021.3

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、亀岡淳一、楠木良夫、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、白水始、たなかよしこ、中山晃、野崎浩成、深谷達史、道田泰司、八木橋朋子



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・2刷・978-4-8234-1089-5 定価2,000円＋税 発行2021.2

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。2008年に刊行した初版を改訂、時代に合った論文執筆へといざなう。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。情報満載のダウンロードデータも用意している。■ Kindle版も発売中。



「書くこと」の授業をつくる

中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科＋千葉軒土著

A5判・208頁・978-4-8234-1041-3 定価2,400円＋税 発行2021.4

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。



あらためて、ライティングの高大接続

多様化する新入生、応じる大学教師

春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・根来麻子・堀一成・由井恭子・渡辺哲司著

A5判・184頁・978-4-8234-1082-6 定価2,200円＋税 発行2021.1

もとより高校と大学の間で構造的に切れてしまっているライティング教育をどうつなぐか——を考える『ライティングの高大接続』の続編。今回はもっぱら大学教師の実践的研究にフォーカスし、理念と実践のベスト・バランスを目指す。「書くこと」の経験も能力もますます多様な新入生たちを迎えてなすべきは、結局「学習者のことを知って、教える」ことである。



英語科学論文をどう書くか 新しいスタンダード

保田幸子著 B5判・232頁・978-4-8234-1080-2 定価 2,400 円＋税 発行 2021. 11 

国際的な発信力を高めたい大学・大学院生、研究者を対象とした英語科学論文執筆のためのガイドブック。トップジャーナルに掲載された最新の論文の分析に基づき、科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、21世紀型の新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を効果的に導くための論文の構成、強調や緩衝などの微妙なニュアンスを伝えるための表現をサンプルの分析を通して段階的に学んでいく。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。

〈大学教育学会 JACUE セレクション選定図書〉



ワイド新版 英語学習 7つの誤解

大津由紀雄著 A5判・208頁・978-4-89476-780-5 定価 1,600 円＋税 発行 2022. 3 

「英語学習は早く始めるほどよい」、「留学すれば英語は確実に身につく」、「英語学習は母語を身につけると同じやり方で進めるのが効果的である」など、英語学習に関してよく耳にする7項目を取り上げて、それがじつは誤解であることをわかりやすく解説する。そのうえで、英語学習ではどんな方法が効果的なのかを探る。英語使いの達人たちがどうやって英語を身につけたかについてのアンケート調査の結果も収められている。NHK 出版の生活人新書の改訂新版。



明日の授業に活かす「意味順」英語指導 理論的背景と授業実践

田地野彰編 A5判・2刷・328頁・978-4-8234-1087-1 定価 3,000 円＋税 発行 2021. 8

教育文法の最新理論「意味順」を活用した英語指導法の決定版、ついに登場。「意味順」を軸に英語指導の体系化をめざす。その理論的背景を、教育言語学、理論言語学、英語史、英詩研究の観点から検証するとともに、豊かな指導経験に基づいた授業への導入例を紹介する。中高から大学までの英語授業の未来を切り開く教師や研究者にとって必読の書。執筆者：田地野彰、金丸敏幸、川原功司、高橋佑宜、笹尾洋介、奥住桂、藤木克哉、山田浩、佐々木啓成、村上裕美、加藤由崇、渡寛法、桂山康司



英語教育における自動採点 現状と課題

石井雄隆・近藤悠介編

A5判・164頁・978-4-8234-1060-4 定価 1,700 円＋税 発行 2020. 10

英語学習者の作文や発話を自動で採点することは可能か？ 本書では、学際領域である自動採点研究を自然言語処理、第二言語ライティング、学習者コーパス研究、言語テスト、教室における指導などの観点から論じる。また自動採点研究の知見を通して、人工知能と人間それぞれにとって、できることとできないことを明らかにすることを目的とする。執筆者：石井雄隆、石岡恒憲、金田拓、小島ますみ、小林雄一郎、近藤悠介、永田亮



JACET 応用言語学研究シリーズ 第1巻

英語授業学の最前線

一般社団法人大学英語教育学会(JACET) 浅川和也・田地野彰・小田眞幸編

A5判・170頁・2刷・978-4-8234-1040-6 定価 2,000 円＋税 発行 2020. 11

1962年の創立以来行ってきた応用言語学研究の理論と実践を形として残すためにスタートしたのが本 JACET 応用言語学研究シリーズである。創刊号の本書は、授業学をテーマに開催された「英語教育セミナー」(2016～2018年度)を総括した内容(基礎編、理論編、応用編、資料編)の4部構成である。授業学の第一線で活躍する研究者達による珠玉の1冊である。執筆者：ジュディス・ハンクス(訳：加藤由崇)、柳瀬陽介、吉田達弘、竹内理、浅川和也、岡田伸夫、村上裕美、佐藤雄大、馬場千秋



ネット時代の中国語

張婧禕・玉岡賀津雄・王莉莎著

B5判・172頁・978-4-8234-1081-9 定価 2,400 円＋税 発行 2021. 3

この本は、“你有微信吗？(Wechatを持っていますか。)”などの中国の情報化社会で生活するために必要な表現をふんだんに取り入れた中国語教科書である。発音、語彙、文法、会話、読解など2年間連続して使用できるようにした。中国の社会・文化に関する豆知識、中国を短期間旅行するために必要な会話帳、読解、ドリルもあり、多様なニーズに対応できるよう構成した。

★音源はネットで提供。



昭和の文学を読む 内向の世代までをたどる

外村彰編 A5判・296頁・978-4-8234-1138-0 定価 2,000 円＋税 発行 2022. 4

「昭和」の時代を1927年から1970年まで、象徴的に区切って全11章に仕立てた文学史のテキスト。各章の冒頭では読者に向け、当該の時代・社会状況から作品の解釈、あるいは文学者個人の動向までを絡めたいくつかの「問い」を提示した。また各章の後半には小説・童話・詩歌などを収録。文学史の学びプラス文学講読にも役立つよう編集をした書である。執筆者：外村彰、橋本正志、辻本千鶴、田村修一、楠井清文、福田涼、島田龍、古澤夕起子、藤原崇雅、東口昌央



文学理論入門 論理と国語と文学と

疋田雅昭著 A5判・272頁・978-4-8234-1104-5 定価 2,200 円＋税 発行 2021. 11

高校生の現代文が、文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。この政策が単なる「分離」ではなく「隔離」であることは明らかだが、我々はこの「分離」を逆手にとって、新たな国語教育の可能性を模索してゆかねばならない。文学理論と文学教育をどう切り結ぶのか。そして、文学的文章と論理的文章の教育を有機的に組み合わせるべくには、何が必要なのか。専門的知から様々な領域に「接続」するための紐帯を提供する、新しい文学理論入門。



中高生のための本の読み方 読書案内・ブックトーク・PISA型読解

大橋崇行著 四六判・226頁・2刷・978-4-8234-1027-7 定価 1,800 円＋税 発行 2021. 1

Webマガジン「未草」で連載された「中高生のための本の読み方」が書籍化。中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、書き下ろし部分では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わるOECDのPISA型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。■ Kindle版も発売中。



一人ひとりのことばをつくり出す国語教育

府川源一郎著 A5判・352頁・978-4-8234-1141-0 定価 2,800 円＋税 発行 2022. 3

国語教育は、ことばによる一人ひとりの自立を支援する教育的営みである。学びの場でそれを具体的に実現するには、どのような準備と考え方が必要なのか。本書は、この問題を以下の三つの観点から検討する。1. 国語科の教育内容の問い直し、2. ことばの学びの成立に関わる事例の考察、3. 史的観点からの位置づけの更新。新稿も含めて、著者による最新の成果を集めた創見に満ちた論考集。



国語科における「話し合い」学習の理論と実践

内田剛著 A5判・352頁・978-4-8234-1124-3 定価 7,800 円＋税 発行 2022. 3

新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン・ツールの普及によって、私たちのコミュニケーションは否応なしに変化を迫られている。このような変化の時期だからこそ、私たちは冷静に「話し合う」ことの重要性を再認識しなければならない。本書は明治期から現在における国語教育の「話し合い」学習が、どのような理論や目標に基づいて行われてきたかを分析した上で、今求められる「話し合い」学習の具体的な実践案を提案している。



明治・大正期国語科の成立と修身科との関わり

文学教材は何を伝えたのか

山本康治著 A5判・312頁・978-4-8234-1075-8 定価 6,200 円＋税 発行 2021. 2

明治・大正の教育は、忠君愛国とそれに基づく家族国家観の形成に向けて、修身科を頂点とした教育体系により展開していた。その中で文学教材は、修身科にあつては、「教訓・訓戒」のための題材として、国語教育実践の場においては、それらに抗う、児童主体の「想像」を重視した題材として扱われていった。本書では、当時の国語教育の実相を捉えるとともに、脱文学の方向性を示している現在の国語教育のあり方についても考察する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



明治期の幼稚園教育と童話 小学校教育・児童文学との関わりから

北川公美子著 A5判・356頁・978-4-8234-1084-0 定価 7,200 円＋税 発行 2021. 2

日本の幼稚園教育の歴史の中で、童話との関係は深く、その初期から「談話・説話」の保育項目の中で取り上げられ、現在でも教材として重要な役割を担っている。本書では、そのような童話が、幼稚園教育の黎明期である明治期において、どのように保育の中へ導入され、受容されてきたかを、小学校教育や児童文学、及び社会状況との関わりを踏まえ、実証的に検証することにより、保育内容としての童話の成立過程の一端を明らかにした。



中国現代文学 23

中国現代文学翻訳会編

A5判・226頁・978-4-8234-1078-9 定価 2,000 円＋税 発行 2021. 2

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第23号。蒋一談「発生」(取り壊される胡同と孤独な老人に訪れた“発生”とは)、普玄「生・一枚の紙切れ」(生まれようとする赤子と老婆が交わす命の秘密)、陳応松「カケスはなぜ鳴くか」(断崖の文字に導かれる一人の農民の運命)、何玉茹「鋤を担ぐ女」(社会にも家庭にも居場所のない農婦の葛藤)などを掲載。



中国現代文学 24

中国現代文学翻訳会編

A5判・152頁・978-4-8234-1107-6 定価 2,000 円＋税 発行 2022. 3💡

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第24号。双雪濤「平原のモーセ」(連続強盗殺人事件と二人の幼なじみは、どうつながっていくのか?)、畢飛宇「作り事」(亡き祖父の最後の願いとは?)、王蒙「灰色の鳩」(80年代初めの中国、農村から都会へ出稼ぎにやってきた若者の夢と現実)、史鉄生の晩年の詩三編(「今晩は夜明けまで起きていよう」「トーニャとニーチェ」「グリゴラ」)、本の紹介などを掲載。



ゼロからはじめる哲学対話 哲学プラクティス・ハンドブック

河野哲也編 得居千照・永井玲衣編集協力

四六判・376頁・2刷・978-4-8234-1032-1 定価 2,200 円＋税 発行 2020. 10

哲学カフェ、子どもの哲学、企業内哲学対話をやってみたい人のための必携ハンドブック。経験豊かな実践者が執筆を担当。人の集め方、場所の決め方、問いの出し方、対話の進め方、使える道具、困った時の対応の仕方など具体的な解決案が満載。対話に必要な哲学史と哲学説の知識も一通り学べる。誰もが使える対話と思考のためのガイドブック。■ Kindle 版も発売中。



大学が地域の課題を解決する

ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ

白石克孝・西芝雅美・村田和代編

A5判・288頁・978-4-8234-1003-1 定価 3,600円＋税 発行 2021.9💡

大学に求められる新たな役割とは。本書では、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。バイリンガル版(英日)。執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、スティーブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーン・フィッツモウリス、向野也代、ジェニファー・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝 ■ Kindle版も発売中。



シリーズ 話し合い学をつくる 3

これからの話し合いを考えよう

村田和代編 A5判・272頁・978-4-8234-1002-4 定価 3,200円＋税 発行 2020.12

「シリーズ 話し合い学をつくる」待望の第三巻。話し合いは合意形成のツールとして考えられがちだが、目的はそれだけなのだろうか。多領域からの研究・実践報告や議論を通して、あらためて話し合いの機能や可能性を考える。そして、人口減少や超高齢化社会を迎えるこれからの日本社会にとって、話し合いがどのように貢献ができるのかについても問い直す。執筆者：佐藤徹、田中富雄、岡本能里子、服部圭子、中川雅道、杉岡秀紀、宗田勝也、佐野亘、森本郁代、香取一昭、野村恭彦、中村香苗、村田和代



小劇場演劇とは何か

後藤隆基編 A5判・256頁・978-4-89476-972-4 定価 3,600円＋税 発行 2022.3💡

近代日本演劇史に〈小劇場演劇〉を位置づけ、その流れを辿る。さらに歴史的観点とともに、現在においてどのような劇団がどのような活動をしているのか、現代の小劇場演劇の諸相についても考察する。また、日本に留まらず世界の小劇場演劇の様相についても概説し、総合的に小劇場演劇について理解を深めることができる一冊。執筆者：石川巧、梅山いつき、加藤敦子、後藤絢子、後藤隆基、嶋田直哉、高萩宏、仲田恭子、中村邦生、新野守広、早船聡、日置貴之、堀切克洋、松本和也



デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教

ユダヤの伝統とライシテの狭間で

平田文子著 A5判・304頁・978-4-8234-1101-4 定価 7,000円＋税 発行 2022.2💡

デュルケームは、ラビの継承者でありながらユダヤ教信仰を棄ててフランスの世俗道徳論者になった。この通説に対して、ユダヤ教に根拠を置いて彼の道徳的連帯論を検討することが本書の目的である。近代以降キリスト教に対抗して進展してきた民主主義は、その基盤に世俗主義を掲げてきた。彼の世俗道徳論をユダヤ教の法概念に照らして解釈することは、「キリスト教から世俗主義へ」という近代西洋思想の展開に新たな視点を与える。〈日本学術振興会助成刊行物〉



ディラブディ

與那覇悦子・山本史・山田真寛

A4判・40頁・978-4-8234-1050-5 定価 1,600 円＋税 発行 2022. 5

与那国島の民謡を元にした与那国語による創作物語。与那国語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

おなかをすかせた子どもたちのために、ディラブディはたいまつを、ウデヤマとイサは銚子を持って、アプヒティ浜に魚をとりに行きました。イラブタイユ、ミサダイユ、ミーバイ、カタカシン…ウブダヌ浜に上がって突いた魚を数えると、360匹! 家族みんなでおなかいっぱい食べました。



星砂の話(ふしぬ いんのぬ はなし)

内盛スミ・山本史・中川奈津子

A4判・40頁・978-4-8234-1051-2 定価 1,600 円＋税 発行 2021. 12

竹富島に伝わる伝説。竹富語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。お母さん星とお父さん星が星の子供を生む場所に、大明神の言うことを聞いて竹富の南の海を選んだが、七竜宮神の怒りに触れてしまい…。竹富島の真っ白な美しい浜には、星の形をした砂が落ちている。この星砂がなぜ竹富にあるのか、またこれにまつわる儀式をなぜおこなっているのか。竹富島の自然や風習と神様がつながっていて、その近さがわかります。



カンナマルクールクの神(カンナマルクールクぬ かむ)

野原正子・山本史・下地賀代子

A4判・40頁・978-4-8234-1052-9 定価 1,600 円＋税 発行 2021. 12

多良間島に古くから伝わる昔話。多良間語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

多良間島に生まれた絶世の美少女カンナマルクールク。島の若者たちはその美しさに、寝食を忘れるほど魅了され次々倒れていく。これを案じた守姉は、カンナマルを浜へと連れ出した。魚を焼いて食べさせている間に岩陰に隠れ、そっと見てみると…。物語の中には実在する海や拝所も出てきます。



塩一升の運(ましゅ いっしゅーぬ くれー)

松村雪枝・田中美保子・山本史・横山晶子

A4判・44頁・978-4-8234-1053-6 定価 1,600 円＋税 発行 2022. 1

沖永良部島で古くから伝わる昔話。沖永良部語の詳しいことばの解説付き。朗読音声・動画がネットにあり。

浜辺で長者がうたた寝していると、神様たちの話し声が聞こえてきた。集落で生まれた赤ん坊に運命を授けに行くという。女の子には塩一升の運、男の子には竹一本の運が授けられた。二人はやがて夫婦になるが、ある事がきっかけで夫が妻を追い出してしまう。数年後再会した二人はすっかり命運が分かれていて…。言葉と語りの多様性を感じられる絵本です。



新刊情報は

こちらからご覧いただけます。



ひつじ書房ウェブサイト
新刊紹介ページ

<http://www.hituzi.co.jp/books/sinkan.html>



「未発ジュニア版 2022 春夏」
電子版 (PDF)

https://www.hituzi.co.jp/mihatu_jr2022/mihatu_jr2022ss_light.pdf

これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクトの意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第114巻 複合辞研究

その成り立ちと広がり

松木正恵著 A5判・978-4-89476-661-7

日本語の複合辞に関する総合的研究。5部からなる。第1部は複合辞研究史で、複合辞と隣接した後置詞・形式副詞等も射程に入れながら概観する。第2部は複合辞と引用表現との関わり、第3部は複合辞と文法化との関わり、第4部は複合辞と連体修飾・連用修飾との関わり、といった各側面からの考察で、個別表現を取り上げ記述する。第5部は複合辞認定論で、複合辞とは何か、どのように認定すべきかという根本的な難問について試論を提示する。

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第176巻 中国語の役割語研究

河崎みゆき著 A5判・978-4-8234-1055-0

中国語にも役割語が存在するのか、するならどのような生態で、中国語の特質とどう関係するのか、翻訳や外国語教育、言語学に貢献しうるかを以下の面から調査研究した。1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」、3. 非言語行動と人物像、4. 非言語成語と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象、7. 「役割語」のリソースとしての小学校語文教科書。2017年に北京・商務印書館より発行した本の日本語版。

第188巻 条件文の日中対照計量的研究

KH Coder と SPSS を利用した可視化分析

李光赫・趙海城著 A5判・978-4-8234-1113-7

日中対照研究者必携! 中日対訳コーパスを利用し、条件文の日中対応状況を可視化する方法を説明した最初の研究書。初心者でも理解できる中日対訳コーパスの構築と研究の方法を紹介。日中対照研究を量的に比較・可視化する新たな研究方法を提示。海外版の Windows でも使え、数学が苦手な文系の研究者でも統計処理が可能。三種類以上の言語と日本語の対照研究にも応用可で、海外の日本語学習者でも日本語教育者でも使える。

第189巻 形容詞類およびオノマトペの形態統語的研究

漆原朗子著 A5判・978-4-8234-1140-3

形容詞類は動詞・名詞に比して通言語的な変異が顕著である。本書では、まず諸言語の形容詞類の形態統語的特徴を概括する。そのうえで、日本語の形容詞といわれる「形容動詞」の範疇と統語的振舞いを分散形態論の枠組みで分析、朝鮮語と比較する。その際には述語化にかかわる繫辞(コビュル)の同定も行う。さらに、日本語に特徴的なオノマトペの様々な用法についても、それらの意味と形態統語的実現の対応に関する分析を提示する。

第191巻 語用論的方言学の方法

小林隆著

A5判・978-4-8234-1150-2 定価 8,800 円 + 税

近年、語用論の発展はめざましいものの、歴史語用論や社会語用論に比べ、日本語の地理的側面についての語用論は遅れている。本書はそうした状況を踏まえ、方言学の世界に語用論的な見方を導入し、新たな方言学を切り拓こうとするものである。対象は言語行動、談話に留まらず、オノマトペや感動詞の運用、文法論との接点に及ぶ。また、それらの現象を背後から操る「言語的発想法」の地域差をあぶり出そうとするところに特色がある。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

第192巻 話し言葉における受身表現の日中対照研究

陳冬姝著 A5判・978-4-8234-1151-9

日本語の受身文と中国語の「被」構文に関して、統語的・意味的観点から多くの知見が蓄積されているが、ほとんどは書き言葉を中心とするものであった。本書では、これまで重点的に論じられてこなかった話し言葉における日中受身表現の使用傾向に注目し、その非対称性、述語動詞の類型分布、主語の選択傾向、使用頻度の差などを調査・比較し、意味的機能・談話的機能のどちらをより重視するかという点を軸に、日中受身表現の使用の共通点・相違点の全体像を示した。

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究を見通せることができる一冊。執筆者：高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

言語学翻訳叢書

22 これからの言語学 (仮)

ダイナミックな視点から言語の本質に迫る統語論
ジム・ミラー著 岸本秀樹監訳 吉田悦子・久屋孝夫・三浦香織・久屋愛実訳 A5判・978-4-8234-1091-1

言語には異なるモード(話しことば、書きことば)や変種(地域的、社会的)が存在する。本書は、統語分析の対象から外されることが多い標準から逸脱した変種であっても、信頼できるデータを十分に観察すれば、言語現象を適切に分析できることを解き明かす。多彩な実例から言語の本質に迫ろうとするアプローチは、記述文法のみならず、形式文法においても十二分に価値を持つ。丁寧な訳注とコラムも付いて、新たな文法研究に挑む醍醐味を実感できる一冊。原著：Jim Miller (著) *A Critical Introduction to Syntax*.

シリーズ言語学と言語教育

45 日本語学習から見た〈機能語〉の類の研究 (仮)

日本語能力試験1級〈機能語〉の類の分類に基づいて
松原幸子著 A5判・978-4-8234-1149-6

かつて日本語能力試験には「出題基準」というものがあり、そこには1・2級のレベルを示すために〈機能語〉のリストが五十音順に掲げられていた。これは現在も有効であると考えられているが、明確な定義や規定はなく、体系的・理論的に論じられることもなかった。本書は1級の〈機能語〉の類の一つ一つを主に品詞に基づいて分類し、文法的働きを確かめることを通して、その特色と日本語学習上の位置付け、さらに学習の意義を明らかにすることを目指した。

ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ(赤野一郎・内田聖二監修)

5 英語談話標識のさまざまな姿 (仮)

談話標識から話し手の意図を知る
廣瀬浩三・松尾文子・西川眞由美著
四六判・978-4-8234-1153-3

コミュニケーションは、話し手の発話意図を巧みに伝え、聞き手が誤解することなく理解できれば成功したと言える。その成功の鍵を握るのが談話標識である。本書では、英語談話標識について、個々の用法を詳細に述べると同時に、英語談話標識の全体像を明らかにしている。談話標識の理解を深めることで、ネイティブスピーカーの「心」が見える。

3 季節のつめ合わせ (仮)

古代文学編
福田孝著 四六判・978-4-8234-1152-6

奈良平安期の有名12作品の散詩文集。季節の風物が出てくる原文を読みながら各作品の特徴をわかりやすく説明する。古めかしい衣装をまとっているかもしれない作品をいまの作品のように身近に感じて自身で手に取って楽しく読むための案内書でもある。春『土左日記』『伊勢物語』『うつほ物語』『古事記』夏『和泉式部日記』『枕草子』秋『源氏物語』『かげろふ日記』『竹取物語』『万葉集』冬『おちくば物語』『更級日記』。

シリーズ 言語・コミュニケーション研究の地平【全3巻】(伝康晴・前川喜久雄・坂井田瑠衣監修)

自己と対峙する

吉川正人・佐治伸郎・土屋智行編
A5判・978-4-8234-1125-0

LC(Language and Communication)研究会による研究成果をまとめたシリーズ。本書では、言語行動だけでなく、音韻や構文など言語知識の内実、言語の構造的側面や規則性に関する探求も含め、ヒトの内的プロセスに目を向けることを「自己と対峙する」と捉えた。様々な分野にまたがるバラエティ豊かな論考を収録。執筆者：浅原正幸、石本祐一、加藤祥、小磯花絵、佐治伸郎、全美炷、田島弥生、土屋智行、寺岡丈博、堀内ふみ野、前川喜久雄、吉川正人

他者と対峙する

有本泰子・坂井田瑠衣・岡田将吾編
A5判・978-4-8234-1126-7

LC(Language and Communication)研究会による研究成果をまとめたシリーズ。他者とのコミュニケーションにおいては、感情状態、非言語的要素、背景にある社会的関係といった様々な要素が絡み合う。本書には多様なアプローチからの論考を収録し、「人はいかにして他者と対峙するのか」という根源的な問いに迫る。執筆者：天谷晴香、有本泰子、居關友里子、榎本美香、岡田将吾、岡本雅史、小室允人、坂井田瑠衣、城綾実、伝康晴、坊農真弓、山本真理

シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

2 鮎屋で握りを注文する (仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮎屋にフィールドを求め、親方をはじめとする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるもののはずである。鮎屋の注文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出していつているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

5 「三夜講」で火祭りを準備する

野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み
榎本美香編 A5 判・978-4-89476-735-5

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田瑠衣、高梨克也、寺岡丈博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通

ポストコロナル時代の人文学と東アジア文化圏

2 新世紀の文学研究

一国主義を超えて
千野拓政・鳥羽耕史編 A5 判・978-4-89476-979-3

グローバル化とともに激変する世界の中で、難しい位置に立つ文学。もはや日本、中国といった単体で考える意味は薄れている。創作の現場で作家はどのような問題に直面し、研究者はそれをどう捉えることができるのか。日本と中国の最先端で活躍する作家・研究者が文学の現状と未来を語り尽くす。執筆者：酒井直樹、古川日出男、閻連科、王曉明ほか

3 人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？
千野拓政・草原真知子編 A5 判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか

21 世紀日本文学ガイドブック

3 平家物語

高木信編 A5 変形判・978-4-89476-510-8

『平家物語』を理論的に読むとはどういうことなのか。従来の作者論、成立論、成立圏、諸本論の整理からの入門書とはちがう角度から、『平家物語』に迫ってみよう。「ジェンダー」「怨霊と鎮魂」「権力」「武士と死」「権力」などの物語を構築する諸モチーフから、『平家物語』の世界に分け入っていきたい。と同時に、ゼミでの発表の仕方、卒論の発想のしかた・書き方など、物語へのアプローチの基本的な方法も提示してみる。

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す
小林ミナ・船橋瑞貴編 A5 判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体的な状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合っている存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自

在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレア マリィ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、船橋瑞貴

日本語プロフィシェンシー研究の広がり

鎌田修監修代表 鎌田修・由井紀久子・池田隆介編
A5 判・978-4-8234-1137-3

「プロフィシェンシー」(熟達度)が第一、第二言語使用者の運用能力研究に使われるようになって久しい。非流暢だが自然な日本語、視覚・聴覚障害者や定住外国人の社会エンゲージメント、談話分析、ライティング、e-Learning、教師養成など多岐多様に渡る日本語プロフィシェンシー研究の広がりを著者全員のピアレビューの後、一挙に披露した珠玉の論集である。執筆者：東健太郎、麻生迪子、池田隆介、和泉元千春、伊藤亜紀、伊東祐郎、岩崎典子、宇佐美まゆみ、閻琳、遠藤智子、奥野由紀子、鎌田修、北川幸子、阪上彩子、坂本正、桜井千穂、定延利之、佐藤慎司、島津百代、嶋田和子、白鳥文子、立部文崇、田中真理、塚田智冬、堤良一、中井好男、西川寛之、野山広、長谷川哲子、林良子、船橋瑞貴、松田真希子、丸山岳彦、溝部エリ子、三井久美子、山路奈保子、由井紀久子

ヘブル詩の文法

聖書ヘブル語の並行法について
津村俊夫著 A5 判・978-4-8234-1135-9

本書は聖書に記されている詩(ヘブル詩)について、詩独自の文法に注目することで新たな解釈を示す。詩の文法を分析する必要性を唱えた、ヤーコブソンの議論を踏まえて、ヘブル文字をローマ字転写した本文と最新の邦訳聖書を比べながら、漢詩やモンゴル語、スラブ語の詩にも見られる並行法の特徴を、多くの具体例から検討する。聖書学だけでなく、言語学・詩学の研究にも資するところが大であろう。

話し言葉の多様性 (仮)

山崎誠・柏野和佳子編 A5 判・978-4-8234-1086-4

話し言葉のコーパスが充実するにつれ、話者の属性、会話の場面や目的などにより、話し言葉が多様な姿を見せることが分かってきた。本書は、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス(CEJC)」のプロジェクトで開催したシンポジウムでの発表をもとに、音韻、語彙、文法、文体の諸側面から話し言葉の多様性を明らかにしようとするものである。執筆者：山崎誠、小磯花絵、石井久美子、入江さやか、河野礼実、高崎みどり、村井源、柏野和佳子、丸山直子、金青華、茂木俊伸、飯間浩明

5 分間で言語学 一口サイズのことばへの誘い

リッカーソン・ヒルトン編
上田功、大津智彦、加藤正治、早瀬尚子監訳
A5 判・978-4-89476-840-6

ことばは、空気のように我々の周りに当たり前に存在し、かつ不可思議で複雑である。本書では、一流の言語研究者が平易な語り口で、未知なることばの世界へと読者を誘う。60からなる各章は短い。言語の起源、動物の言語、世界の書き言葉、手話言語、言語の変化等、様々な角度からことばに迫る。

時間の許すときに手に取り、読み始めてみよう。翻訳者：上田功、大津智彦、加藤正治、金子理紗、奥藤里香、田中瑤子、高森理絵、中尾朋子、早瀬尚子、渡邊拓人

データから眺めた言葉とコミュニケーション (仮)

大津隆広編 A5判・978-4-8234-1043-7

言語コーパスや音声・映像などの多様な言語・非言語データをベースに、言葉やコミュニケーションに関わる言語の諸相を分析した研究書。テンスやモダリティ、構文分析、談話標識やフィラー、会話パフォーマンスや日本語母語話者と非母語話者の相互行為能力、文法化や言語接触など、言語・非言語データをもとにした言語研究のアプローチ方法を示す。執筆者：内田諭、大津隆広、大橋浩、土屋智行、冬野美晴、松村瑞子、山下友子、山田明子、山村ひろみ、横森大輔、劉巖、Edmundo Cruz Luna

日本語おもしろ事典

高山善行・中井精一・森山卓郎著

A5判・978-4-8234-1168-7

私たちが話したり、書いたり読んだりしている日本語の面白さを考える。現代語の地域の言語から、文法や日本語の歴史などのことばをめぐる意外なありようを考えていく。素朴な疑問から、ちょっと変わった問いかけやどきっとする不思議ないいかたなどまで、100ほどの項目で、コラムもあり、ことばの面白さを感じることができる本になっている。

一語から始める小さな日本語学

金澤裕之・山内博之編 A5判・978-4-8234-1148-9

「わーい」はいかにも話し言葉だが、実際に「わーい」と発話することはほとんどない。それはなぜなのか……。本書には、このような問題意識から出発し、一語にこだわった分析を行う17本の論文が収録されている。ネタ・素材に触れた時の発想・着想がとても重要で、一方、論証は最小限でよい。これが、本書の提案する「小さな日本語学」である。執筆者：岩田一成、奥野由紀子、加藤恵梨、金澤裕之、小口悠紀子、小西門、嶋ちはる、建石始、田中祐輔、中石ゆうこ、中俣尚己、橋本直幸、本多由美子、茂木俊伸、森篤嗣、柳田直美、山内博之

コーパスによる日本語史研究 中古・中世編

青木博史・岡崎友子・小木曾智信編

A5判・978-4-8234-1133-5

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。本書は中古語・中世語を対象とし、コーパスの構築や活用を通して実践した成果を集成するものである。中古・中世は従来から歴史的研究の中心であったと言えるが、コーパスを用いた方法論を取り入れることによって、新たな領域を切り拓く。

全国調査による感動詞の方言学

小林隆編 A5判・978-4-8234-1167-0

驚きの声を挙げることに地域差はあるのだろうか。その疑問

に答えるべく、感動詞をテーマにした全国1000地点規模の調査を行った。本書はそのデータを分析することで、感動詞の全国的な地域差を明らかにしようとするものである。狭義の感動詞に留まらず、生理音的な発声や動作のかけ声、行為指示・意思表示の表現、さらには挨拶的な言い回しも対象にする。執筆者：有元光彦、勝又琴那、川崎めぐみ、櫛引祐希子、小林隆、坂喜美佳、作田将三郎、椎名渉子、竹田晃子、田附敏尚、津田智史、友定賢治、中西太郎、船木礼子、松田美香

方言の研究 8 特集 感動詞の研究

日本方言研究会

A5判・978-4-8234-1030-4 定価5,000円＋税

投稿論文3本、特集論文8本、また「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」(各2本)を掲載する。特集は、第111回研究会のシンポジウムの発表をふまえ、さらに内容を充実させたものとなっている。執筆者：有元光彦、稲熊詩帆、今村かほる、岩城裕之、工藤真子、後藤典子、小西いずみ、小林隆、澤村美幸、下野雅昭、杉村孝夫、武田拓、田附敏尚、友定賢治、日高貢一郎、船木礼子、松田謙次郎、松田美香

ポエティクスの新展開

プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて

片岡邦好・武黒麻紀子・榎本剛士編

A5判・978-4-8234-1144-1

多様な記号の反復・対照性・平行性によってもたらされる等価性、すなわち「詩」の原理は、様々なコミュニティ内で指向される「行為の型」を司る原理でもある。伝統儀礼、芸能から、教育、福祉、実業、観光、社会運動まで、我々が実際に身を置く社会に存在する実践を「生活の詩」と捉え直し、社会的行為の根底にある詩的機能の作用を解き明かす。執筆者：浅井優一、井出里咲子、榎本剛士、梶丸岳、片岡邦好、高梨博子、武黒麻紀子、古川敏明、山口征孝

上田万年再考

日本言語学史の黎明

長田俊樹著 A5判・978-4-8234-1170-0

本書の目的は既存の通説を打破して、新しい上田万年像を打ち立てることである。上田万年は称賛するにせよ、批判するにせよ、西洋言語学を日本に導入した人という評価は変わらない。その評価はどこまで正しいのか。そこが本書の出発点である。新村出筆録・柴田武校訂(1975)『シリーズ名講義ノート・上田万年 言語学』をネット上にある上田が参照したと思われる原書文献と照らし合わせ、上田の西洋言語学理解を検証する。

古代エジプト語のヒエログリフ入門 (仮)

ロゼッタストーン読解に挑戦

永井正勝編 宮川創・吉野宏志・永井正勝著

A5判・978-4-8234-1155-7

「ヒエログリフ(聖刻文字)」の世界へと読者を案内する学術的な入門編。ヒエログリフの仕組みからロゼッタストーンに刻まれたヒエログリフに至るまで、初学者向けに解説しながら丁寧に読み解く。ヒエログリフの解説に繋がったロゼッタス

トーンには、何かが書いてあるのか？ エジプト語の言語的な位置付けから、ことばの構造、それぞれの文字の読み方・意味を解説。ウェブマガジンでの人気連載に、大幅な加筆をして書籍化。

手話が「発音」できなくなる時

言語機能障害からみる話者と社会

石原和・菊澤律子編 A5判・978-4-8234-1156-4

「手話は言語である」といわれるようになって久しい。では、手話が「話せなく」となると、どうなるのか？ 本書では、交通事故で手話が部分的に「発音」できなくなった例をとりあげ、話者の立場、言語学からみた解釈、そして法律上の解釈を紹介する。アメリカでの類似の事例もとりあげつつ、手話が言語であるとは？と社会との関係を考える。執筆者：石原和、市田泰弘、菊澤律子、那須川訓也、原大介、スーザン・フィッシャー、藤原百合、藪ノ内寛

自閉スペクトラム障害の言語

幕内充編 A5判・978-4-8234-1157-1

自閉症児が終助詞「ね」を全く使わないという、衝撃的な綿巻徹の1997年の報告にinspireされた言語学と医学領域の研究者が協同して自閉スペクトラム障害における終助詞使用の研究に取り掛かった。カートグラフィーの創始者であるリッツィが理論を解説(日本語訳 遠藤)、その理論を遠藤が日本語終助詞に応用する。執筆者：木山幸子、和田誠、遠藤喜雄、Luigi Rizzi、幕内充、他

言語進化学の未来を共創する

岡ノ谷一夫・藤田耕司編 A5判・978-4-8234-1161-8

階層性と意図共有を言語進化の2つの柱として、言語学および脳科学・生物学など各関連分野から未来の言語進化学への提言を行う。本書は、文科省新学術領域研究『共創言語進化』を進める中で組織された「若手の会」メンバーにより企画され、若手による意欲的な論考12編と、領域計画班代表5名によるコメント論文、そして自由闊達な座談会からなる。2022年9月に金沢で開催の国際学会『言語進化合同会議』(JCoLE)開催記念出版。

イン／ポライトネス

からまる善意と悪意

滝浦真人・椎名美智編 A5判・978-4-8234-1159-5

ポライトな言葉は予定定的に調和するが、インポライトなそれは隠微に絡み合う。21世紀以降、インポライトネスが言語研究者らを惹きつけているが、建前と本音を分ける日本では、未だ数えるほどしか研究がない。待たれていた初のインポライトネス論集として、漱石作品やママ友のバトルを解剖し、悪態・毒舌・ディスりを剔抉、善意が悪意に転じる契機を捉える。執筆者：阿部公彦、大塚生子、佐藤亜美、椎名美智、滝浦真人、西尾純二、福島佐江子、柳田亮吾

レジリエンスから考えるこれからのコミュニケーション教育(仮)

村田和代編 A5判・978-4-8234-1165-6

コロナ禍で大きくコミュニケーションの有様が変容した状況

で、教育も大きく変わらざるを得なかった。予期せぬ困難は、今後も起こりうることを誰しもが感じているが、本書では、教育、とりわけ言語・コミュニケーション教育を「レジリエンス」という側面から考える。今後、我々の経験をどのように生かしていくことができるかも含め多様な領域から議論する。執筆者：松下達彦、池田麻衣子、村田和代、秦かおり、嶋津百代、熊谷由理、吉田悦子、中村香苗、塗銘宏、チャプル、ジュリアン、横溝紳一郎、柳瀬陽介、岡本能里子

パソコンがあればできる！ ことばの実験研究の方法 第2版

容認性調査、読文・産出実験からコーパスまで

中谷健太郎編 A5判・978-4-8234-1166-3

内容を大幅に刷新・増補した第2版刊行。パソコンのできる実験研究の初心者向け実践方法(容認性調査、自己ペース読文課題、語彙性判断課題、言語産出課題、コーパス、CHILDES 検索法)を紹介する。第2版では実験ホスティングサービス PCIBex Farm と Gorilla の基本的な使用法、アメリカ英語のコーパスとして定評ある COCA の検索法を新たに追加。執筆者：青木奈律乃、浅原正幸、有賀照道、木戸康人、田中幹大、中谷健太郎、中野陽子、長谷部陽一郎

An Introduction to Cognitive Grammar

Basic Readings in English

吉村公宏著 菊判・978-4-8234-1145-8

認知文法理論への超入門書。英語で書かれた専門書や論文は敷居が高い。でも英語を使って専門知識を得たいもの。本テキストは平易な英語で認知文法に近づく道案内の書である。Exerciseでは英語で考え、英語でoutputする体験型テキスト。独習も可能。英語の運用力をつけながら理論を体感する構成となっている。教養レベル、専門の英語学・言語学における初学者向けの一冊である。

ゼロから学べる島むに読本

琉球沖永良部島のことば

横山晶子著 B5判・978-4-8234-1158-8

国内の危機言語である、奄美群島沖永良部島の言葉(しまむに)を、体系的に学べる読本である。文法記述研究を元に、音の体系、単語の作り方、文の作り方まで幅広くカバーし、実際の会話で使う文例や、はじめに学ぶべき100語も付録されている。豊富なイラストと平易な文章で、小学校高学年から大人まで、楽しみながら学ぶことができる。他地域の方言教本を作る上でも参考になる一冊である。

認知言語学論考 No.16

山梨正明編

A5判・978-4-8234-1131-1 定価 9,800円＋税

井上拓也 認知言語学を生態学的言語論として語り直す／濱本秀樹 Instruction of English Counterfactuals Based on Embodied Cognitive Experience／濱田英人 日英語の語の意味拡張のメカニズムの違い／Ash L. Spreadbury X they said Y they said as a Sarcastic Multi-sentential Construction／夏海燕 「てくる」構文に見られる〈不快感〉について／中村涉 格の単義的分析とその帰結／栗田奈美 本動詞から複合語構成要素、接辞への連続性／五十嵐啓太 私的・公的表現の区

別から見た絵本の表現技法／松中完二 多義の原理についての認知意味論的考察

メタファー研究 3

特集：身体性

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰・河野哲也・菅村玄二編

A5判・978-4-8234-1132-8

河野哲也 知覚に先んじるメタファー／菅原和孝 身体隠喩の資源目録と談話におけるその用例／三村尚彦 体験とシンドルの相互作用としてのメタファーがもつ可能性／加藤祥・浅原正幸 概念メタファーと表記／福市彩乃・村上祐介・菅村玄二 姿勢にみる身体性と「立腰」教育への心理学的アプローチ／山本佑実・菅村玄二 身体部位別の温度感覚と健康感および感情イメージとの関連性／岡村心平 Gendlin による Johnson のメタファー論の批判的検討／児玉北斗 コレオグラフィー、ダンスを書くことの系譜学

日本における言語社会化ハンドブック

クック治子・高田明編 A5判・978-4-8234-1049-9

人類学、言語学、心理学、社会学などが交叉する領域で近年発展し、注目されている「言語社会化」アプローチの古典と最新の研究をまとめて紹介する本邦初の書籍。言語社会化の研究は、文化的新参者が「文化の文脈」と関連させつつ「状況の文脈」をどのようにとらえるのか、またそうしたとらえ方を文化的熟練者がどのように示唆するのかを明らかにする。これにより、「言語を使うための社会化」と「言語を使うことを通した社会化」を結びつけながら追究する。

言語教育とコメニウス

松岡弘著 A5判・978-4-8234-1100-7

現代の外国語教育の内容と方法、その基本理念は、実に四世紀も前に一人のチェコ人牧師かつ学校教師によって確立した。その人ヤン・アモス・コメニウスは教授学者・思想家として名高いが、本務は国内外の学校におけるラテン語教育であった。筆者は彼の著した言語教科書、その指導書・理論書を原典に則して読み解き、さらにコメニウスが近現代の中央ヨーロッパの言語教育界にもたらしたものを、日本語教師の目を通して明らかにする。

言語学習における学習ストラテジーと動機づけ

理論と実践の創造的キュレーション

大和隆介著 A5判・978-4-8234-1116-8

AI による翻訳によって外国語学習は不要になってしまうのか。本書は、言語学習の成否に大きな影響を与える「学習ストラテジー」と「動機づけ」に注目して、現代社会が求める、機械翻訳では代替できない統合的コミュニケーション能力を育成する英語教育の在り方について論じる。前半で2つのテーマにかかわる諸理論について創造的キュレーション(知的探索と整理)を行ない、後半では理論に関連した実証的研究と教育実践を報告する。

エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』覚書

鈴木淳著 A5判・978-4-8234-1115-1

エドモン・ド・ゴンクール著『北斎』は、著者が古美術商林忠正の助力を得て、北斎に美術史上の評価を与えた、先駆的業績であるが、その評価はいかなるものであったか。筆者の見解は、ゴンクールが、「版画の世紀」と謳われたエッチングを中心とするフランス版画と同じ土俵に北斎を上せ、版画家でもあった弟ジュールとの共著『十八世紀の美術』の延長線に、世界美術史上の類稀なデッサン画家として位置付けたというものである。

ゼロからはじめる数理的言語研究入門 (仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著

A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていないかった。関心を持って、初学者にはなかなか手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手の言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストラレーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

「気づき」をうながす文法指導 (仮)

英語のアクティブ・ラーニング

島田勝正著 A5判・978-4-8234-1164-9

文法指導はどうあるべきか? 本書では、教師による一方的な文法説明に代わるものとして、アクティブ・ラーニングを導く課題解決型の文法指導を提案する。具体的には、第二言語習得過程の各々の段階に対応して、意識化指導、認知文法、ディスコース、インプット、アウトプット、タスク、訂正フィードバックの7つの観点から、「気づき」をうながす英語の文法指導の基盤となる理論を解説し、その実践例を紹介する。

読解力を高め自信をつける先行学習 (仮)

決め手はあなたの指導技術

鍋木良夫著 A5判・978-4-8234-1154-0

授業を変えたいと思っている教員に、読解力が高まる習得から活用へと進む「先行学習」型の指導法と、いじめ予防にもつながる授業スキルを提供する。教える側の授業スキル次第で、生徒の読解力と人間力は大きく向上する。いつでもどこでも使える39の授業スキルを手にして指導力を高めよう。『もっとわかる授業を! 「先行学習」のすすめ』(高陵社、2015年)に大幅な改稿を加えた改訂増補版。

日本語コミュニケーションのための読解教材の作成

野田尚史・桑原陽子編 A5判・978-4-8234-1121-2

日本語学習者向けの読解教材の作成方法を解説する。実際に読む必要がある日本語を分析し、学習者が読解で難しい点を調査した上で、コミュニケーションに役立つ読解教材をどのように作成すればよいかを提案する。例として取り上げるの

は「葉の表示を読む教材」「ネット上のクチコミを読む教材」「白書を読む教材」「論文を読む教材」である。国語教育にも有益。執筆者：任ジェヒ、王麗莉、加藤陽子、北浦百代、桑原陽子、小西円、塩田寿美子、白石実、蘇钰甯、中島晶子、野田尚史、松下光宏、山口美佳、山本晃彦、吉本由美

よりよいコミュニケーションのための日本語会話 (仮)

中級レベルからの学習者が学ぶ
小池真理・ヒルマン小林恭子・宮崎聡子著
B5判・978-4-8234-1147-2

中級学習者からの「会話が續かない」「相手の話はわかるが上手く応答できない」などの悩みの声に答える、自然で円滑な会話を展開できる力を養成する会話教材。会話の中で必要な配慮とは何かを考え、話し手としてだけでなく、聞き手として相手の意図を汲み取り共感を示す方法を丁寧に学ぶことができる。語彙や表現を豊富にし自己表現できる練習、ロールプレイ、振り返り活動が各課に入り、学生にも社会人学習者にも役立つ教材。

目指せ！ 書ける大学生

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方
澤村美幸・朴秀娟・新井由美著
B5判・978-4-89476-941-0

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの?」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいの?」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩的問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけられる一冊。

文学研究の扉をひらく

基礎と発展
石川巧・飯田祐子・小平麻衣子・金子明雄・日比嘉高編
A5判・978-4-8234-1136-6

本書は、作品を「読む」というのはどのような行為なのかという問いから出発し、精緻に読解する方法と技術を習得するとともに、文学研究の知識、資料の集め方、分析の視点を習得するためのテキストである。基礎編「研究へのアプローチ」、実践編「批評理論を用いた分析」の全15章からなり、オンライン授業にも活用できる工夫を凝らした。執筆者：飯田祐子、石川巧、大木志門、大島丈志、小平麻衣子、金子明雄、川崎賢子、久米依子、高榮蘭、斎藤理生、佐藤泉、出口智之、内藤千珠子、日比嘉高、山口直孝

卒業論文マニュアル

日本近現代文学編
斎藤理生・松本和也・水川敬章・山田夏樹編
978-4-8234-1146-5

日本近現代文学で卒論を書こうとしたら、何から手をつけたらよいだろうか。必要な準備、分析の手立て、執筆の進め方は？ 本書は、作品研究に重点を置いた、現代の研究環境を踏まえた上での卒論執筆のマニュアルとなる。テーマ決めの

段階から提出前の推敲まで、読者をサポートする。執筆者：安部水紀、荒井真理亜、小谷瑛輔、斎藤理生、佐藤希理恵、武久真士、広瀬正浩、松本和也、水川敬章、山田夏樹、吉田恵理、吉田竜也、禧美智章、渡邊英理

小説のフィクションリティ

理論で読み直す日本の文学
高橋幸平・久保昭博・日高佳紀編
A5判・978-4-8234-1162-5

小説がフィクションであるとはどういうことか——。分析文学の影響下に、ポスト構造主義以降の文学・芸術理論を形成しつつあるフィクション論。欧米の主要な理論的アプローチを概観しながら日本独自の「フィクションリティ」を照射し、近現代小説の新たな読みを提案する。巻末に「読書案内」としてフィクション論主要文献リストを付す。執筆者：高橋幸平、久保昭博、日高佳紀、河田学、大浦康介、黒田大河、中村三春、西田谷洋、服部徹也、飯田祐子、ホルカ・イリナ、山本歩、西川貴子、笹尾佳代、ポーヴィウ・マリ＝ノエル

中国語現代文学案内

中国・台湾・香港ほか
栗山千香子・上原かおり編 A5判・978-4-89476-960-1

今、中国や台湾にはどんな作家がいて、どんな作品を書いているの？ 日本語で読みたいけれど、翻訳はあるの？ —中国や台湾に関する本はたくさん出版されているが、こんな疑問に答えてくれる本が実はない。本書は、中国および台湾、香港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう編まれた案内書である。作家ごとの「作家ファイル」や「作品データ」等を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できるよう心がけた。

パフォーマンス・アプローチ心理学

自然科学から心のアートへ
フレド・ニューマン、ロイス・ホルツマン著 茂呂雄二監訳 岸磨貴子・北本遼太・城間祥子・大門貴之・仲嶺真・広瀬拓海訳 A5判・978-4-8234-1160-1

19世紀の成立以来、危機が叫ばれ続けてきた心理学。現在の隆興も、科学性の勝利というよりも、社会と文化の心理学化と心理学の産業化の結果にすぎないと批判するニューマンとホルツマンは、生活の形を変えるためのアートとしての心理学を提案する。それは自然科学を模倣し心の内部を覗き込み測定する科学的心理学を超えて、人々がコミュニティー作りを通して、新しい振る舞い、新しい声、新しい生を紡ぎ出す新しいアプローチだ。原著：Fred Newman and Lois Holzman (著) *Unscientific Psychology: A Cultural-Performatory Approach to Understanding Human Life*.

欧文タイポグラフィへの招待 (仮)

河野三男著 A5判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広

告類にも通用する、デザインの要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

新刊の紹介動画 YouTube で配信中

YouTube で著者の先生によるご著書の紹介動画やスタッフによる本の紹介動画を公開中です。ぜひご覧ください。



上の動画はこちらからご覧いただけます。



https://www.youtube.com/channel/UCT8t_l8nBbAMB1boi71s-4w

テキストのご案内

■テキストレベルのめやす

テキストの内容のレベルをおおまかに4段階にわけて示します。

より
専門的
↑

日本語学	英語学	言語学一般・言語教育	スタディスキル	日本語教材・文学他
ガイドブック日本語文法史 ガイドブック方言研究 ガイドブック文章・談話 ガイドブック日本語史 ガイドブック日本語史調査法			Writing for Academic Purposes 英語科学論文をどう書くか 🟡	ひとりでも学べる日本語の発音
改訂版 日本語要説 基礎日本語学 日本語の文法	Linguistics Meaning and the English Verb Language Change ベーシック英語構文文法 ファンダメンタル音声学 ファンダメンタル英語学演習	ベーシック応用言語学 改訂版 社会言語学 🟡 新版 社会言語学図集 🟡 言語人類学への招待 問題を通して学ぶ 生成文法 場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック フィールドワークではじめる言語学 🟡	これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版 ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版	「大学生」になるための日本語 よりよいコミュニケーションのための日本語会話(仮) 🍊 文学研究の扉をひらく 🍊
新ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話 ベーシック現代の日本語学	ベーシック新しい英語学概論 ベーシック英語史 ファンダメンタル英語学改訂版 ファンダメンタル英語史改訂版 ファンダメンタル英文法	ファンダメンタル認知言語学 ベーシック生成文法 ベーシック語彙意味論 ベーシックコーパス言語学 第2版 ベーシック日本語教育 使える日本語文法ガイドブック	ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション グループワークで日本語表現力アップ 協働で学ぶクリティカル・リーディング アカデミックプレゼンテーション入門 卒業論文マニュアル 日本近現代文学編 🍊	そのまんまの日本語 出会い 学びのエクササイズ文学理論 テキスト分析入門 文学理論入門 🟡
学びのエクササイズ日本語文法		学びのエクササイズことばの科学 学びのエクササイズ認知言語学 学びのエクササイズ子どもの発達とことば 学びのエクササイズレトリック 探検！ことばの世界	失敗から学ぶ大学生のレポート作成法 はじめよう、ロジカルライティング 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング	日本語がいっぱい 小説を読むための、そして小説を書くための小説集 昭和の文学を読む 🟡 ネット時代の中国語

より
入門的
↓

ここに挙げているのは一部のテキストです。

🟡 マークは新刊、🍊 マークは近刊です。

● 日本語学

基礎日本語学

衣畑智秀編

A5判・352頁・3刷・978-4-89476-946-5
定価 1,800 円＋税 発行 2019. 2

過不足のない記述で日本語学の諸分野を包括的にカバーし、日本語学を学びたい、または知りたいと思ったときに、まず一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・5刷・978-4-89476-710-2
定価 1,800 円＋税 発行 2016.12

入門テキストとして好評を博した 1997 年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。■ Kindle 版も発売中。



ベーシック現代の日本語学*

日野資成著

A5判・242頁・5刷・978-4-89476-438-5
定価 1,700 円＋税 発行 2009. 4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・8刷・978-4-89476-468-2
定価 1,900 円＋税 発行 2009. 6

好評を博した 1993 年の初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる 1 冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・11刷・978-4-89476-174-2
定価 1,800 円＋税 発行 2000. 3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・7刷・978-4-89476-244-2
定価 2,400 円＋税 発行 2005. 4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短にまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック方言研究

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・8刷・978-4-89476-183-4
定価 1,800 円＋税 発行 2003. 2

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・5刷・978-4-89476-489-7
定価 1,900 円＋税 発行 2010. 4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-615-0
定価 2,200 円＋税 発行 2013. 5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。■ Kindle 版も発売中。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・978-4-89476-854-3
定価 2,600 円＋税 発行 2019. 5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



ここからはじまる文章・談話

高崎みどり・立川和美編

A5判・276頁・3刷・978-4-89476-345-6
定価 2,000 円＋税 発行 2008. 4

ケータイメールやブログ、狂言や『電車男』など日常のあらゆる場面で使用されることばをとりあげ分析する方法を学ぶ。もっとも新しい文書・談話についてのテキストブック。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版★

中島平三著

A5判・160頁・7刷・978-4-89476-575-7
定価 1,400 円＋税 発行 2011. 8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習★

中島平三著

A5判・128頁・3刷・978-4-89476-519-1
定価 1,600 円＋税 発行 2011. 2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版★

児馬修著

A5判・168頁・2刷・978-4-89476-877-2
定価 1,600 円＋税 発行 2018. 1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。



ファンダメンタル音声学★

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価 2,400 円＋税 発行 2007. 5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM 付。



ベーシック英語史

家入葉子著

A5判・138頁・6刷・978-4-89476-349-4
定価 1,600 円＋税 発行 2007. 3

英文法の不規則さは歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びとと全てのための本。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価 1,800 円＋税 発行 2019.10

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



ベーシック新しい英語学概論★

平賀正子著

A5判・228頁・5刷・978-4-89476-554-2
定価 1,700 円＋税 発行 2016. 1

異文化コミュニケーションという視点を中心に、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。■ Kindle 版も発売中。

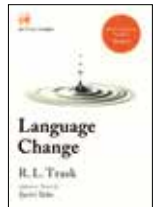


Hituzi's Linguistics Textbook Series 3 Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注釈

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価 1,700 円＋税 発行 2019. 12

現代英語を含む英語の歴史的变化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・7刷・978-4-89476-336-4
定価 1,200 円＋税 発行 2007. 3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・7刷・978-4-89476-282-4
定価 1,200 円＋税 発行 2006. 4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・2刷・978-4-89476-608-2
定価 1,600 円＋税 発行 2014. 5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・6刷・978-4-89476-426-2
定価 1,600 円＋税 発行 2009. 3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。本書を基にした英語版 *Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective* (p. 14) も刊行。

■ Kindle 版も発売中。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

A5判・288頁・978-4-8234-1093-2
定価 1,700 円＋税 発行 2021. 3

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初学者にも分かりやすく平易に解き明かす。



ベーシック応用言語学

L2 の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・368頁・978-4-89476-795-9
定価 1,800 円＋税 発行 2017. 3

個別的に論じられることの多かった、第2言語 (L2) の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



学びのエクササイズ子どもの発達とことば

伊藤崇著

A5判・160頁・978-4-89476-855-0
定価 1,600 円＋税 発行 2018. 5

家庭内での会話や学校での授業など、0歳から18歳までの子どもが出会う多様な社会的場面で起こるコミュニケーションから、言語発達過程にひとつの筋道を読み解く。



改訂版 社会言語学

基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・368頁・978-4-8234-1143-4
定価 2,200 円＋税 発行 2022. 3

社会言語学の成り立ちから最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析、言語人類学、批判的談話分析などのテーマの解説も充実。



新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編

A5判・296頁・978-4-89476-942-7
定価 2,500 円＋税 発行 2021.11

社会言語学の各領域におけるトピックごとに、裏付けとなったデータの図表と、日本語と英語・中国語(繁体字)・韓国語の解説を加えた。外国語学習としても活用できるテキスト。



言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著

A5判・264頁・978-4-89476-965-6
定価 2,400 円＋税 発行 2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。



● 英語学習

Critical Reading through Collaborative Learning*

館岡洋子監修 津田ひろみほか著

B5判・128頁・978-4-89476-930-4
定価 2,200 円＋税 発行 2019. 3

協働学習で学ぶ英語リーディングのテキスト。様々なメディアから厳選した英文記事を収録。学習者が身近に感じられる話題をとおして英語によるアクティブラーニング型授業を提案する。



脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著

A5判・320頁・3刷・978-4-89476-858-1
定価 1,600 円＋税 発行 2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとりいれ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類の話題を収録した、英語実践練習のテキスト。



● スタディスキル

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・132頁・5刷・978-4-89476-970-0
定価 1,600 円＋税 発行 2019. 4

大学初年次を対象としたレポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例を挙げながら、レポートにふさわしい表記、引用ルールから作成プロセスまで基礎から段階的に学ぶ。■ Kindle 版も発売中。



日本語を書くトレーニング★

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・2版4刷・

978-4-89476-177-3

定価 1,000 円＋税 発行 2014.12

変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。■ Kindle 版も発売中。



日本語を話すトレーニング★

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・6刷・978-4-89476-210-7

定価 1,100 円＋税 発行 2004. 3

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人があまり上手に話していない音声聞くことにより考える。



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・2刷・978-4-8234-1089-5

定価 2,000 円＋税 発行 2021. 2

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段取りをマスターできる。■ Kindle 版も発売中。



Writing for Academic Purposes

英作文を卒業して英語論文を書く

田地野彰ほか編

A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3

定価 2,000 円＋税 発行 2010. 4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



英語科学論文をどう書くか

新しいスタンダード

保田幸子著

B5判・232頁・978-4-8234-1080-2

定価 2,400 円＋税 発行 2021.11

英語科学論文執筆のためのガイドブック。科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション★

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著

B5判・168頁・4刷・978-4-89476-471-2

定価 1,500 円＋税 発行 2012. 2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。■ Kindle 版も発売中。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版★

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

B5判・150頁・7刷・978-4-89476-709-6

定価 1,600 円＋税 発行 2014. 7

相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。 <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm> ■ Kindle 版も発売中。



グループワークで日本語表現力アップ★

野田春美ほか著

A5判・176頁・5刷・978-4-89476-802-4

定価 1,400 円＋税 発行 2016. 3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング★

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校

国語科著 執筆協力・戸田山和久

B5判・224頁・5刷・978-4-89476-700-3

定価 1,600 円＋税 発行 2014. 5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。「論理的」とはどういうことかに始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論★

西田谷洋著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-703-4
定価 1,400 円＋税 発行 2014. 4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分け解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



テキスト分析入門

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-836-9
定価 2,000 円＋税 発行 2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではない。小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術を分析する方法を具体的に解説。



文学理論入門

論理と国語と文学と

疋田雅昭著

A5判・272頁・978-4-8234-1104-5
定価 2,200 円＋税 発行 2021.11

高校の現代文が文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。これらを有機的に組み合わせてゆくため、新たな国語教育の可能性を模索する文学理論入門。



小説を読むための、そして小説を書くための小説集

読み方・書き方実習講義

桑原丈和著

四六判・244頁・978-4-89476-945-8
定価 1,900 円＋税 発行 2019. 4

語り論・読者論・インターテクスチュアリティなどの文学理論の基礎をふまえて、実際に短篇小说を読み、またそのパロディを書くことを通して書き方を学んでいく。



● 日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・10刷・978-4-89476-285-5
定価 1,900 円＋税 発行 2007. 4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2
定価 2,000 円＋税 発行 2020. 3

実際の談話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声 CD 付。■ Kindle 版も発売中。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い【本冊 テーマ学習・タスク活動編】★
【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著
本冊：B5判・224頁・4刷・

978-4-89476-758-4

定価 3,000 円＋税 発行 2015. 5

別冊：B5判・144頁・4刷・

978-4-89476-801-7

定価 1,800 円＋税 発行 2016. 3

テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補完できるようになっている。

■ Kindle 版も発売中。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

1：B5判・192頁・4刷・

978-4-89476-435-4

定価 1,900 円＋税 発行 2009.10

2：B5判・252頁・3刷・

978-4-89476-462-0

定価 1,900 円＋税 発行 2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもちいた読解文、より自然な会話を目指した聴解 CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える1冊。



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記の URL をご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

電子教科書について

教科書の電子化をすすめています。電子教科書と取り扱い書店は順次増やしていく予定です。

■ 電子教科書タイトル一覧

2022 年 4 月時点での電子教科書一覧です。著者名の後に電子書店・媒体を記しています。

電子化のリクエストおよせください。

新ここからはじまる日本語学 伊坂淳一著

Kindle

ガイドブック日本語史 大木一夫著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版

プロセス重視のレポート作成 大島弥生ほか著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション

プレゼンテーションとライティング 大島弥生ほか著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

Kindle / Google Play ブックス

日本語を書くトレーニング 野田尚史・森口稔著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

ベーシック生成文法 岸本秀樹著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

★ *Analyzing Japanese Syntax* も Kindle 版発売中。

ベーシック新しい英語学概論 平賀正子著

Kindle / Google Play ブックス

これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

そのまんまの日本語

自然談話コーパスの会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

Kindle / Google Play ブックス

日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】

【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス /
Maruzen eText Service

使える日本語文法ガイドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著

Kindle / Google Play ブックス

ひとりでも学べる日本語の発音

OJAD で調べて Praat で確かめよう

木下直子・中川千恵子著

Kindle / Google Play ブックス

■ 電子書店

〈個人の方向け〉

○ Kindle (Amazon.co.jp / Amazon.com)

○ Google Play ブックス (Google)

○ Knowledge Worker (丸善雄松堂) など

〈教育機関向け〉

○ Maruzen eText Service (丸善雄松堂)

→丸善雄松堂が提供する教室・講座単位での電子教科書配信サービス。

教科書以外の電子本や電子書店の詳細
はこちらからご覧ください。

<https://www.hituzi.co.jp/ebook/>



雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

2021年10月号 二世紀における「若者」表象―「距離」「乖離」「虚無」／11月号 国語・文学教育における〈主体〉の位相／2022年1月号 新企画・誌面共同発表／2月号 2021年度研究発表大会／3月号 古代文学の〈距離〉とコミュニケーション／4月号 日本文学協会第76回大会 文学研究の方法の再検証―樋口一葉『十三夜』をよむ



※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>) までお願いいたします。

製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。

日本語音声コミュニケーション 10 (日本語音声コミュニケーション学会)

目次

日本語母語話者と日本語学習者の終助詞「ね」のイントネーション産出(鄭穎)／日中母語話者の参与形態均衡性の異なり―社内ウェブミーティングにおける同調アフォーダンスの量的比較に基づく考察(楊一林)／研究ノート 政治家の「非流暢な発話」と映像編集(宿利由希子)

ひつじ書房ウェブマガジン 未草 (ひつじぐさ) のご案内

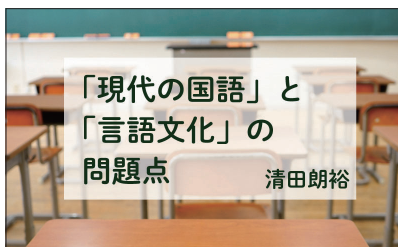
言語や文学ほか、ことばに関わる幅広いテーマについて連載をしています。



<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/>

◇新連載

「現代の国語」と「言語文化」の問題点 清田朗裕 (2022年4月現在、第3回まで更新中)



この度、「現代の国語」と「言語文化」の問題点」というタイトルで、来年度からスタートする新しい高等学校の国語の科目が抱えている問題点について述べることになりました、清田朗裕と申します。どうぞよろしくお願いいたします。具体的には、タイトルの通り、「現代の国語」と「言語文化」という2科目の問題点を取り上げます。

学校教育について特に学んだことのない方にも、この問題についてできるだけわかりやすく述べていきたいと思います(その分前置きの内容が増えてしまいますので、すでに知識をお持ちの方は、適宜読み飛ばしていただいた方がよいかもしれません)。

「第1回 ゴっすり知りたい! 新しく始まる高1国語の問題点」(2021.11.17)より

◇連載中

〈社会システム〉として言語教育を観察していく 新井克之／句読法、テンマルルール わかりやすさのきほん 岩崎拓也／少なすぎる公共図書館の資料費 山重壮一／外国人労働者の受け入れに日本語教育は何ができるか 田尻英三／言語展示学～ことばの宇宙を届けたい 菊澤律子／BOOK REVIEW: STRAY SHEEP(書評)

※ 好評の2つのシリーズが、このたび完結いたしました。この機会にぜひお求めください。

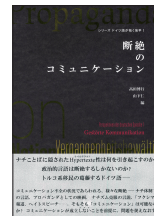
言語を切り口に、現在の社会・歴史・文化を論じる シリーズ ドイツ語が拓く地平 [全3巻]

1 断絶のコミュニケーション

高田博行・山下仁編 A5判・272頁・978-4-89476-961-8 定価3,800円＋税

執筆著：大宮勘一郎、川島隆、佐藤卓己、高田博行、田中克彦、田中翔太、田中慎、田野大輔、野呂香代子、初見基、山下仁

ナチ体制下の言語、プロパガンダとしての映画、ヘイトスピーチほか、コミュニケーション不全の状況で現れるさまざまな断絶がある。そもそも「コミュニケーション」は可能か？

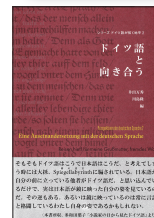


2 ドイツ語と向き合う

井出万秀・川島隆編 A5判・276頁・978-4-89476-998-4 定価4,000円＋税

執筆著：井出万秀、川島隆、黒田享、佐藤恵、真田治子、大喜祐太、高田博行、多和田葉子、中直一、浜崎桂子、美留町義雄、村瀬田出夫

複数の言語のはざまで、あるいは言語の転換点で、人々は、ことばとどう向き合ってきたのか。ことばをつくり、使い、整え、疑い、格闘してきた人々のその営みを俯瞰する。



3 ノモスとしての言語

大宮勘一郎・田中慎編 A5判・344頁・978-4-8234-1106-9 定価4,400円＋税

執筆著：井出万秀、遠藤浩介、大宮勘一郎、小川敦、川島隆、清野智昭、杉田優子、高田博行、高橋秀彰、武田利勝、田中慎、宮田眞治

規則・国語制度・言語教育・慣習など、ことばには「人為的な法則化」がつきまとう。

時代によって変容と更新を繰り返すその規範(ノモス)は、何を、いかに目指すのか。



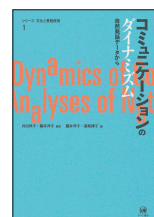
近代科学の前提に疑問を呈し、言語研究を問い直す シリーズ 文化と言語使用 [全3巻] (井出祥子・藤井洋子監修)

1 コミュニケーションのダイナミズム 自然発話データから

藤井洋子・高梨博子編 A5判・194頁・978-4-89476-791-1 定価2,600円＋税

執筆著：熊谷智子、菅原和孝、鈴木亮子、高梨博子、成岡恵子、藤井洋子

日本語の言語使用にみる「場」の共創、感情表出の指示詞、反応発話、即興的に生まれる遊びや身体化の視点から言語コミュニケーションのメカニズムや多様性を考察。



2 場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子編 A5判・308頁・978-4-89476-792-8 定価3,600円＋税

執筆著：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫、古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト

これまでの語用論理論から漏れてしまった非西欧社会の言語実践現象に息吹を与え、日本語のみならず、ハワイの文化・コミュニケーションの理解などに資する新しい理論の提案。



3 場と言語・コミュニケーション

岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編

A5判・288頁・978-4-89476-793-5 定価3,600円＋税

執筆著：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由里、小柳昇、河野秀樹

近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論に基づく「主客非分離」「場における相互作用」のパラダイム転換を打ち出した渾身の一作。新たな言語研究の地平を切り開く。



祝
シ
リ
ー
ズ
完
結
!